

令和5年度 次世代の地域づくり中核人材育成事業 未来の参画者養成事業

記録集



山形県教育局 生涯教育・学習振興課／山形県青年の家 研修課

村山教育事務所 社会教育課／最上教育事務所 社会教育課

置賜教育事務所 社会教育課／庄内教育事務所 社会教育課

目 次

〔事業概要〕

令和5年度 次世代の地域づくり中核人材育成事業・未来の参画者養成事業

実施要項	2
概念図	3

〔村山地区実践記録〕

○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1. 事業計画	5
2. 各種会議	6
3. 地域活動プログラム	7
4. 事業振り返りとまとめ	10

○未来の参画者養成事業

1. 開催要項とチラシ	14
2. 事業日程	15
3. 参加者の感想	18
4. 参加者アンケート	20

〔最上地区実践記録〕

○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1. 事業計画	22
2. 各種会議	23
3. 地域活動プログラム	25
4. 事業振り返りとまとめ	31

○未来の参画者養成事業

1. 開催要項とチラシ	33
2. 事業日程	35
3. 参加者の感想	36
4. 参加者アンケート	37

[置賜地区実践記録]

○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1. 事業計画	4 1
2. 各種会議	4 1
3. 地域活動プログラム	4 2
4. 事業振り返りとまとめ	4 5

○未来の参画者養成事業

1. 開催要項とチラシ	4 9
2. 事業日程	5 1
3. 参加者の感想	5 3
4. 参加者アンケート	5 5

[庄内地区実践記録]

○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1. 事業計画	5 7
2. 各種会議	5 9
3. 地域活動プログラム	6 2
4. 事業振り返りとまとめ	6 5

○未来の参画者養成事業

1. 開催要項とチラシ	6 7
2. 事業日程	6 9
3. 参加者の感想	7 0
4. 参加者アンケート	7 3

[事業実績まとめ]

○次世代の地域づくり中核人材育成事業 令和5年度実績について	7 4
○未来の参画者養成事業 令和5年度の実績について	7 5

〔事業概要〕



令和5年度 郷土愛・地域人材育成事業
次世代の地域づくり中核人材育成事業・未来の参画者養成事業 実施要項

1 事業目的

地域活動に興味関心の高い中高生や青年が、青年ファシリテーターの指導・助言の下、講義や体験、企画・運営等の実践を通じて、地域活動への理解を深め、地域づくりの次世代リーダーとしての資質を高める。
また、「地域をよくしたい」「役に立ちたい」という高い意識をもちつつも、学校外での社会貢献活動や交流活動を体験できずにいる中学生に対して、地域づくりに関する知識やスキルを身に付ける講座を開催し、未来の参画者を養成する。

2 事業1

- (1) 概要 県内4地区にワーキンググループを設置し、ファシリテーターを各3名ずつ委嘱し、中高生等の参画者を各15名ずつ募集する。
※事業に継続的に関わり、企画・立案・運営に携わる者を「参画者」と呼び、参加者と区別する。
- (2) 内容 ①オリエンテーション及び地域づくりに関する事例提供等（6～8月）
②ファシリテーターの実践活動体験及び対面企画会議（6～8月）
③参画者が企画した地域活動プログラムを開催（9～2月）
④成果発表・振り返りを実施（9～2月）
⑤実践報告会（オンライン等）の開催（3月）

3 事業2

- (1) 概要 中学生の事業参画を促進するために、地域づくりの知識習得やスキルアップに関する講座を開催する。
- (2) 内容 ①地域づくり活動に興味のある中学生参加者を県内各地区で募集(目標:4地区で100名)
②青年ファシリテーターや青年団体、高校生ボランティアサークル会員等による、活動実践の講話や報告を行う。
③講師を招いて知識習得やスキルアップに関する講座を開催する。
④運営協力者の協力の下、身に付けたスキルを体験実習施設で実践する。

4 事業主体

4教育事務所社会教育課の主管事業として実施し、県生涯教育・学習振興課及び県青年の家は事務局として支援する。

5 運営

- (1) ファシリテーターの委嘱・中学生参画者への修了証の授与
各教育事務所長名で委嘱状、修了証を作成し、授与する。ファシリテーター名簿を生涯教育・学習振興課まで提出し、名簿の内容に追加・修正等があれば随時報告する。
- (2) 事業計画・報告
各教育事務所は、各種会議等を含む事業計画を事務局（県生涯教育・学習振興課、県青年の家）に周知するとともに、各事業実施後、速やかに関係書類添付の上、事業内容、参画（参加）者数等を県生涯教育・学習振興に報告する。
- (3) 記録集の作成、HPへの掲載
県青年の家は、本事業に係る「記録集」を作成する。各教育事務所は事業1、2の記録集の編集計画に従い、本事業に係る原稿を作成して県青年の家に提出する。完成版は県のHP、青年の家HPに掲載する。
- (4) 追跡調査
本事業に参画するファシリテーターや参画者には、事業終了後に学校・大学を卒業して進学・就職した先で、地域活動団体に加入したり団体を立ち上げたりして地域づくりに参画したか否か等の追跡調査を行う。調査は県生涯教育・学習振興課が行う。（電子アンケート）
- (5) 保険料について
保険料については「役務費（補）」で一旦支出し、当日集金して県の歳入として取り扱う。

【課題】●それぞれの地域活動は自己完結型で、相互の連携が希薄であり、人手や後継者不足に悩んでいる。
●地域活動に興味関心はあっても、実際に活動を体験する機会が得られない中高生が多数存在する。

【目的】①地域活動に興味関心の高い中高生や青年が、青年ファシリテーターの指導・助言の下、講義や体験、企画・運営等の実践を通じて、地域活動への理解を深め、地域づくりの次世代リーダーとしての資質を高める。
②地域づくりの知識習得やスキルアップに関する中学生向け講座を開催し、未来の参画者を養成する。

次世代の地域づくり中核人材育成

ワーキンググループ(WG)の設置

県内各地区に地域づくりに関する「学びの場」としてのWGを設置
・青年ファシリテーターを各地区3名ずつ委嘱
・中高生等の参画者を各地区10～15名ずつ募集
※事業に継続的に関わり、企画・運営に携わる者を「参画者」と呼び、一般の参加者と区別する。

具体的な事業内容

参画者が企画・運営を通じて地域活動への参画意欲を高める
6～8月 ①オリエンテーション及び地域づくりに関する事例提供等
②ファシリテーターの実践活動体験及び企画会議を対面で開催
9～2月 ③参画者が企画した地域活動プログラムを開催
④成果発表・振り返りを実施

青年ファシリテーター
や高校生参画
者が関わる

未来の参画者養成

中学生向け講座の開催

中学生の事業参画を促進するために、地域づくりの知識習得やスキルアップに関する講座を開催する
・地域づくり活動に興味のある中学生参加者を、県内各地区で募集
(目標:4地区で100名)
・講師を招いて知識習得やスキルアップに関する講座を開催
・運営協力者(社会福祉協議会、NPO法人、公務員等)の協力の下、身に付けたスキルを体験実習施設で実践

具体的な事業内容

・青年ファシリテーターや高校生参画者、Yボ・サカケ会員等による活動実践報告
・地域づくりの知識習得やスキルアップに関する講座
・保育園、幼稚園、学童、子育て支援施設、福祉施設、公民館、図書館等の施設での体験実習や習得したスキルの実践

★追跡調査 前年度のファシリテーターや参画者等に、地域づくり活動への参画状況や、地域活動団体への加入状況等を追跡調査し、成果を検証する。

- (プログラム例) ※各地区の状況に応じて「参画者」が企画・立案
1.地域活動の現状を知る青年の地域活動に係る事例発表会を開く
2.地域活動の取組みを実際に体験し、ワークショップ形式で振り返る
3.地域の課題をテーマに話し合い、課題解決のアイデアを提案する
4.地域課題に関する企画を、関係機関と連携して実施し、地域を元気にする
5.活動を通じて生まれた取組みを継続する地域活動団体を組織する

進級・進学・就職後に
継続参画者または
ファシリテーターへ

参加した中学生が
進級・進学後に
将来的に新規参画者へ

【効果】

- ①中高生と地域活動をしている青年がつながる
- ②地域づくりの次世代リーダーが輩出される
- ③持続可能な青少年の地域活動が生まれる

〔村山地区実践記録〕



○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1 事業計画

(1) 組織

No.	氏名	市町名	主な所属等	備考
1	稲村 理紗	山形市	まちづくりファシリテーター	
2	佐藤 洋介	村山市	村山市政策推進課地域プロジェクトマネージャー	
3	和田 貴充	村山市	村山市教育委員会生涯学習課生涯学習主査	
4	渡邊 哲也	大江町	大江町教育委員会教育文化課 主事	
5	阿部 浩明	村山教育事務所	社会教育課 課長	
6	伊藤和賀子	村山教育事務所	社会教育課 主任社会教育主事	
7	鈴木 玄輝	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	
8	深瀬 明子	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事補	
9	大泉 泰俊	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	
10	土田 紘愛	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	副担当
11	黒沼 里美	村山教育事務所	社会教育課 社会教育主事	主担当

(2) 目的

地域活動に興味関心の高い中高生や青少年が、青年ファシリテーターの助言の下、講義や体験、企画・運営の実践を通して、地域活動への理解を深め、地域づくりの次世代のリーダーとしての資質を高める。

➡「地域づくりの次世代のリーダーとしての資質」について以下の3点と捉える。

- ①想像力・創造力 ②コミュニケーション能力 ③行動力

(3) 内容及び実施方法

内 容

村山市をモデル地域に設定し、村山市内在住または通学している高校生を中心に参画者を募る。参画者自身が現在抱えている課題や問題意識のあること、実践したいことなどについて、青年ファシリテーターとともに協議し、指導・助言をもらいながら、解決または実行に向けて活動を進めていく。

参画者自身の考えや思いを生かし、解決・実行に向けて活動していく中で、①想像力・創造力 ②コミュニケーション能力③行動力が発揮しやすい場となるように、事業を展開していく。

実施方法

①ファシリテーター会議

ファシリテーターと事業の概要と方向性について協議する。

②地域活動プログラム

「いっしょに Link する？」と称し、参画者同士の協議の場を設定する。

③成果発表

それぞれの企画で協議・実践の内容を発信する。

④振り返り

これまでの活動を振り返り、今後の地域活動について考える。

The image shows a promotional flyer and a registration form for the 'Link' project. The flyer is titled 'いっしょに Link する?' and 'あなたは何とLinkする?'. It features a yellow and blue color scheme with illustrations of people holding hands. The text on the flyer includes 'Link = 「つながる」こと', '出会った仲間と創る新たなチャレンジ!', and '「おもしろい」「やってみたい」を「カタチ」にする'. It also mentions the date '7月9日(日) 10:00~12:00' and the location 'Link MURAYAMA'. The registration form is titled 'いっしょにLinkする? Fax参加申込書' and includes fields for '氏名', '学校名', '学年', '性別', '科', '氏・名', '住所', '電話番号', and 'Eメール'. It also has a section for '申込理由' and 'その他'.

2 各種会議

(1) 実施

No.	月日	場 所	内 容
1	5/16	西村山地域振興局西棟	委嘱状授与、事業の方向性、事業名について
2	6/15	Link MURAYAMA	参画者募集、大まかなスケジュールについて
3	7/3	Link MURAYAMA	第1回「いっしょにLinkる？」のもち方
4	1/28	Link MURAYAMA	この事業の振り返り

(2) 内容

事業の方向性について

①この事業でめざす人間像と育成したい「次世代リーダーとしての資質」について

<めざす人間像>

どこに住んでいても地域を誇りに思い、その思いを行動に移すことができる人

<資質> i) 想像力・創造力 ii) コミュニケーション能力 iii) 行動力

②事業の方向性について

i) 想像力・創造力 ii) コミュニケーション能力 iii) 行動力 を発揮 **経験** → **地域への思い**

【方向性】参画した高校生が自分たちがやりたいことを企画・実践できるように、青年ファシリテーターは助言していく。

③「いっしょにLinkる？」の方針について

i) 大人の枠組みにはめない → “村山市” にこだわらない活動

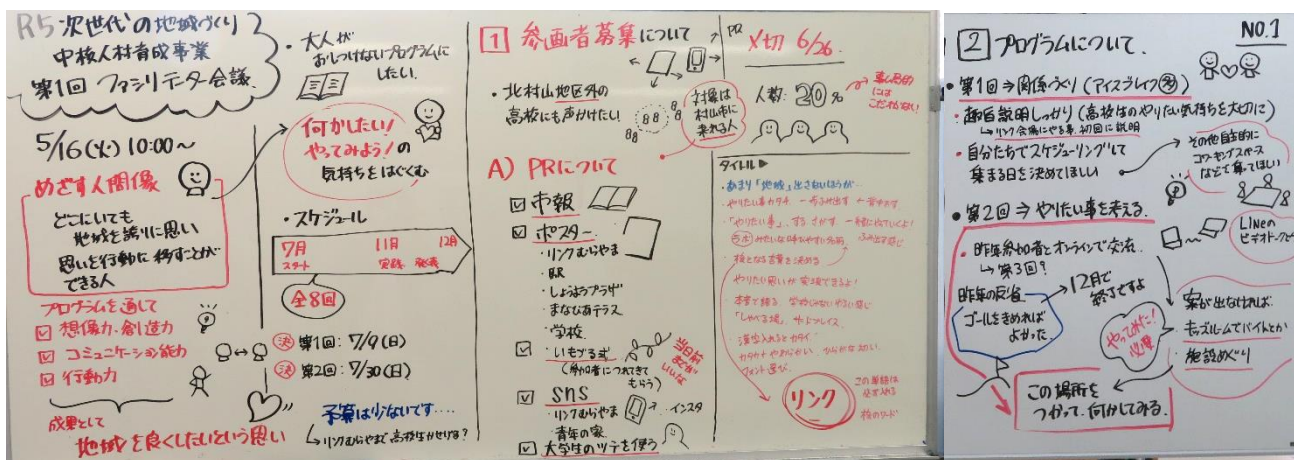
大人が地域を押し付けず、参画者がやりたいことに挑戦し、その思いを実現するために取り組んだ過程の先に、地域の良さを感じてもらえればよい。

ii) “学校ではない活動の場” での活動 → 「お膳立て」は極力しない

自由な考えを發揮しやすい場をつくる。失敗を恐れず挑戦し、苦勞するところは苦勞して、何かを創り出すことの大変さを含んだ楽しさを味わってほしい。

iii) 大きな枠を設定して考える → 「Link MURAYAMA」を活動拠点として考える

大枠だけこちらで提案し、参画者がやりたいことを考える際に、イメージしやすくする。



④青年ファシリテーターの役割について

稲村氏：参画者の話合いのファシリテート 等
佐藤氏：施設に関する紹介・渉外関係 等

和田氏・渡邊氏：参画者へのアドバイス 等
事務局：日程調整、参画者の把握 等

3 地域活動プログラム「いっしょにLinkる？」

＜内 容＞ 場所：Link MURAYAMA (全回)

※以下、ファシリテーターをFTと表記

第1～4回【7/9(日)7/30(日)8/20(日)9/10(日)】

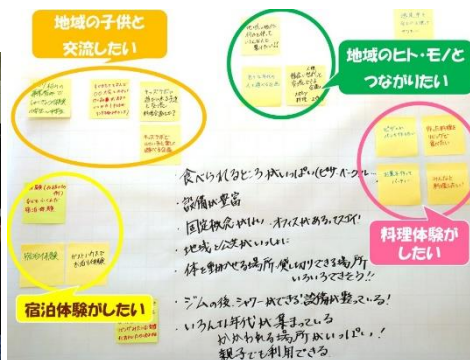
- ・ 参画者同士、FTとのフラットな関係づくり → アイスブレイク
- ・ 施設めぐり ～ 企画のアイデア出し → イメージを膨らませる
- ・ 企画の具体化 → 企画書の作成、タスク整理、スケジュール調整 等

① 自己紹介及びアイスブレイク



自己紹介は、「取説シート」を用いて1人ずつ、アイスブレイクは、毎回、FTが分担して行いました。回を追うごとに、学校・学年の壁がなくなっていました。

② 施設めぐり～アイデア出し

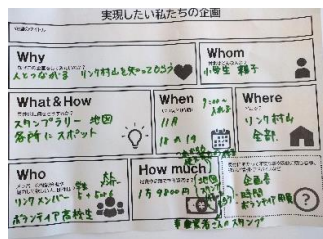


③ 「企画」と「計画」のちがいについて学ぶ



「計画」：目的を遂行するための手順を考える

「企画」：「なぜそれをやりたいのか」根本にある思いから考える



このちがいを学び、自分たちがやりたいことについて、改めて考えてみました。

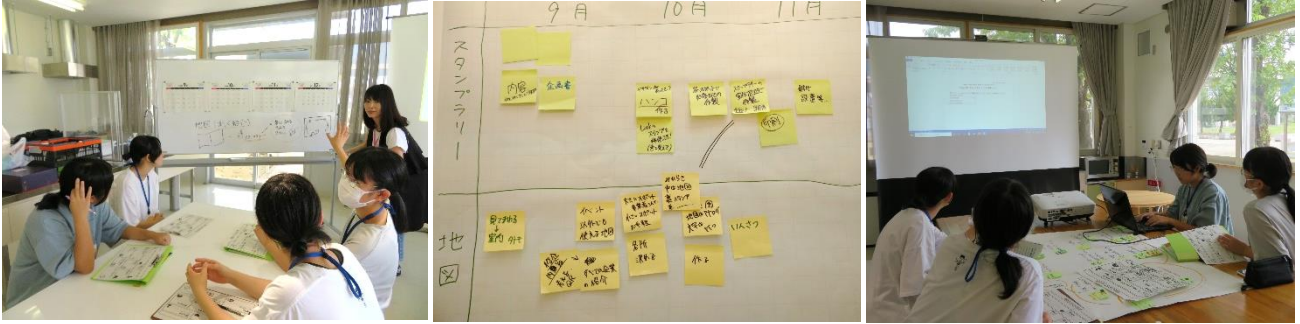
④ アイデア出し → 協議 → 再構築



アイデアを組み合わせたり、新たな視点でアイデアを出したり、自分たちのやりたいことのイメージがどんどん膨らんできました。



⑤ 企画の具体化 → タスク整理・スケジュール調整・企画書作成



話し合いでまとめた企画を、Link MURAYAMA で開催する予定の「やままる祭」というイベントの中で実施してもらうために、企画書を作成することになりました。そのために、企画の概要をまとめていきました。自分たちのアイデアを実施可能な企画にするために、スタンプラリーの中に、子供が楽しめるスポットを設けること、そして、施設の紹介を含んだ地図を作成することになりました。

その後、「やままる祭」実行委員会へ企画を説明するための企画書をみんなで作成しました。

第5～10回【9/30(日)10/22(日)10/29(日)11/18(土)11/19(日)】

- ・地域団体・企業へのプレゼン → 連携するために、企画について説明
- ・企画実施に向けた準備活動 → 適材適所で力を発揮
- ・企画の実施 → 来場者への対応、人手不足への対応 …等

⑥ 地域団体・企業へのプレゼン



※FT 稲村氏の記録

「やままる祭」実行委員長にお会いし、自分たちの企画のプレゼンの機会を設定してもらいました。「やままる祭」の概要を聞き、その後、自分たちの企画について説明しました。お互いの思いを理解し、「やままる祭」から実践の場を提供いただくことになりました。

時を同じくして、予算と場所に課題が上がり、地元高校生との連携を考えていた「yamagata glam」に協力を要請することにしました。「yamagata glam」にも企画をプレゼンし、理解を得て、連携して企画を実施することになりました。

⑦ 最終的な企画の決定

「やままる祭」実行委員会や「yamagata glam」との協議を受け、最終的に、企画は、各スポットでキーワードを集めていくキーワードラリーとしました。各スポットで、子供たちが楽しめる要素を盛り込み、さらに、キーワードを集めた特典として、スーパーボールすくいを行うことに決定しました。また、「yamagata glam」より、焚火体験と焼マシュマロを特典として提供いただけることとなりました。



【各スポットの内容】

- ① ペットボトルボウリング
- ② ぬり絵
- ③ まちがひ探し
- ④ ゲストハウス
- ⑤ 動くスポット(パラリーマン)

⑧ 企画実施に向けた準備活動



キーワードラリーのパンフレットのデザインを試行錯誤しながら作成中。



キーワードラリーの順路を協議。実際に施設内を歩きながら考えました。



必要な物品について検討中。予算の範囲内で購入できるものは…？



来場者がスムーズに取り組めるように地図に表示の工夫を加えています。



廊下の表示をどこに掲示するのかを決め、表示を作成していきました。



考案したオリジナルキャラクター（非公式）をモチーフにデザインを作成。



参画者デザイン まちがい探し。(※キーワードも隠れています。)

グランピングと焚火をデザインに含め企業とのコラボをアピール！！



表紙にはキーワードラリーのルール説明、内側はスポットの位置を示し、裏表紙には、連携した企業やLink MURAYAMAの情報を掲載しました。

⑨ 「やままる祭」(会場：Link MURAYAMA) での企画実施



①ポウキング「わ」



②まちがい探し「ん」



③ぬい絵「ク」



④ゲストハウス「ル」



⑤動くスポット「！」(1日目)



⑤動くスポット「！」(2日目)

各スポットでは、子供たちをはじめ、保護者の方も一緒に楽しめる内容となっています。また、Link MURAYAMAの入居店舗をめぐる事ができる仕組みとなっています。2日間で約300名の来場者が企画を楽しみました。



キーワードラリークリアの特典のスーパーボールすくい。子供たちとの交流を望んでいた参加者たちの表情も生き生きとしていました。

焚火&焼マッシュマロ体験で子供のサポート。焼き加減が難しい！！



追加企画を考案

1日目終了後、2日連続で来場した場合もキーワードラリーを楽しめるように、グループLINEの中で意見を出し合い、新たな企画を追加して実施しました。

最後まで、来場者が楽しめるように工夫を凝らす姿がありました。



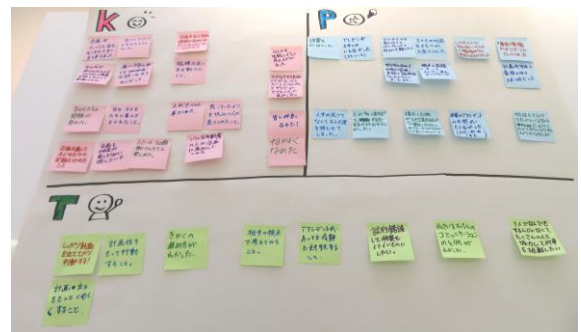
当日は、参加者5名だけでは人手不足。自分たちの友人などに声をかけ、運営スタッフを確保して実施。

4 事業振返りとまとめ

(1) 参加者の振り返り

FT 稲村氏より、KPT法という手法で、振り返りを行いました。

- Keep : 良かった、うまくいった
- Problem : 大変だった、うまくいかなかった
- Try : 次に活かしたい



その後、リーダーとしての資質について、高まりを感じた時について、各自でまとめました。

① KPT法で出された振り返り【Keep : ○、Problem : ▲、Try : ◇】

- “できなさそう” だからやめるではなく、“どうにかしてやろう！” ができたことが良かった。
- 企画を立てるまでの過程や実行するまでにたくさんの人とつながれた。
- いろいろなアイデアを出し、そこから上手にまとめられた。
- それぞれの得意分野を生かし、役割分担しながら企画の実施まで取り組むことができた。
- 子供たちをはじめ、色々な年齢層の方が、自分たちの企画を楽しんでくれた。
- 参加者同士、仲良く取り組むことができた。
- ▲ LINE上での話合いで積極的に意見ができなかった。
- ▲ どんな人が見ても分かるパンフレットを作るのが難しかった。(相手の目線に立って考える)
- ▲ 計画がぎりぎりになってしまい、最後の方に詰め込んだ活動になってしまった。
- ◇ しっかり計画を立ててから行動すること。 → **計画の重要性**
- ◇ 試行錯誤してより良いものにすること。 → **探究心の向上**
- ◇ ひとりで何でもするのではなく、たくさんの人と協力して何事にも挑戦したい。

→ **様々な人とつながることで生まれる相乗効果の気づき**

② リーダーとしての資質への実感

【考える力（想像力・創造力）】

- ・Linkするメンバーと一緒に集まり、キーワードラリーのルールやプレゼント、装飾など、どのようにしたら子供たちが喜んでくれるかを、子供たちの視点に立って考えたことで想像力が高まったと感じた。
- ・今までは、現実的にできるかできないかでアイデアを出していたけれど、Linkするメンバーと自由にやりたいことを考えて実行したことで自信がついた。自分のアイデアが受け入れられて嬉しかった。

【つながる力（コミュニケーション力）】

- ・企画を立てるまでの過程や実行するまでに多くの人と話すことができた。
- ・ひとつの企画を通して、本当に多くの人とつながることができて、初対面の人と話すことへの抵抗がなくなった。
- ・年齢に関係なく、意見を言い合ったり、助け合ったりすることができた。

【動く力（行動力）】

- ・当日の準備に向けて、自分からやることを見つけ、役割をしっかりとこなすように頑張った。
- ・企画を立てて実行するまでにはたくさんの人の協力が必要だということが分かり、その協力を得るために、色々な方にプレゼンができたことで行動力が高まった。



③ アンケートの結果（参画者5名）

Q1：「いっしょにLinkる？」に参加してみてどうでしたか？

大変良かった	良かった	あまり良くなかった	よくなかった
5	0	0	0

Q2：「いっしょにLinkる？」の活動を通して、地域や地域活動への思いに変化はありましたか？

あった	なかった
5	0

Q3：具体的にどんな変化があったか？

- ・その場所に住んでいる色々な人とかかわりあえることが楽しいと感じ、私たちにできることがもっとあるのではないかと考えるようになった。
- ・普段、家にいるだけでは、自分の住む地域にどんな施設や職場があるのか分からないけれど、今回参加して、その多くを知ることができ、自分の住む地域をもっと好きになれた。

Q4：今後、参画者（自分たちで企画運営する）として、活動に参加したいと思うか？

ぜひ参加したい	参加したい	あまり参加したくない	参加したくない
2	3	0	0

Q5：Q4で答えた理由は？

- ・普段かかわる機会が少ない他校の高校生や大人たちと一緒にひとつのことを創り上げることができて良い経験になった。企画運営は準備が大変だが、達成感を感じられたのでまた参加したいと思った。
- ・企画して実行すること、人とつながることの楽しさを実感することができた。知らない人と一緒に何かをやるのは少し勇気がいるが、やってみると思っていたものよりも何倍も楽しかった。これからも、Linkるのようないろいろな企画に参加したい。

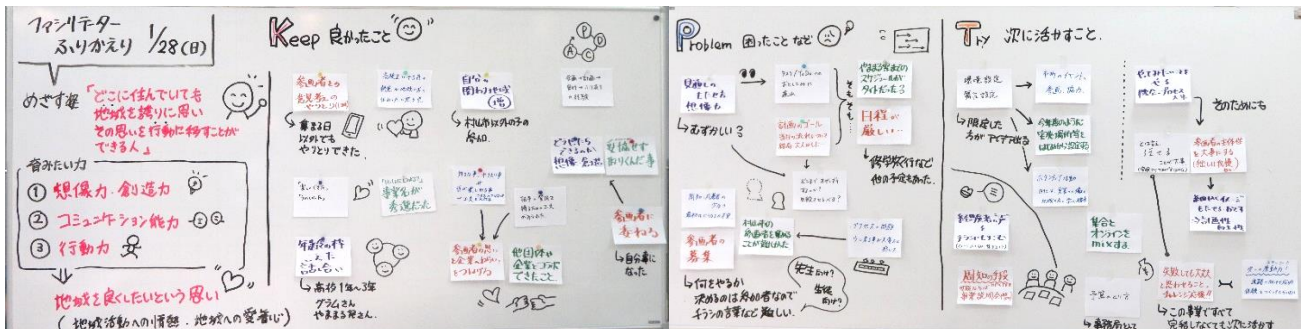
- **Link**るを通して、メンバーはもちろん、色々な人と仲良くなれた気がする。「初めまして」から半年、それぞれの得意分野を生かして企画をつくれたことがとても嬉しかった。日程が合わず、詰め込んだ準備となり見通しの甘さもあったが、改善できることだと思う。また参加できたら嬉しい。
- **Link**るを通して多くの素敵な人と出会い、つながって、自分自身の成長を実感することができた。また、地域の良さを改めて発見することができて、郷土愛がより芽生えた。機会があったらまた地域に貢献できる活動がしたい。
- みんなと仲良くなれたので楽しかった。企画の立て方をよく知ることができた。また、予定をしっかり立てないと大変なことになるのだと実感した。大変なことたくさんあったけれど、いい経験になった。



(2) ファシリテーターの振り返り

① KPT法で出された振り返り【Keep : ○、Problm : ▲、Try : ◇】

- 他団体とコラボしたことにより、企業のねらいを踏まえつつ、自分たちのやりたいことを実現できた。
- どうやったらできるのかを妥協せずに考え抜いたこと。
- 参加者の思いをもとに、やりたいこと、やるべきことを参加者に委ねることができた。
- ▲タスク/To Doを参加者とともに共有することが遅れたため、準備が最後、詰め込みになってしまった。
- ▲実施日までの準備にかかわる見通しのもたせ方には課題が残る。
- ◇環境や舞台をある程度設定することで、アイデアが出しやすくなる。
- ◇参加者のやってみたい(主体性)を大事にし、任せることが大事。(大人がやってあげるはNG)
→失敗しても大丈夫と思わせること。チャレンジ精神を優先する。
- ◇参加者の周知の工夫：経験者の声をチラシに掲載・事業説明会の開催(教職員向け)



② ファシリテーターより

・稲村 理紗 氏（まちづくりファシリテーター）

最後の準備活動の時に、デジタル媒体を活用し、それぞれの役割分担で準備を進め、焦りがあつた状況でも、とても楽しそうに笑顔で活動している姿に、みなさんの底力を感じた。できる範囲でやってほしいという私の思いを上回り、はじめに計画したことを諦めないで、なるべくその通りにやりたいと活動していた。企画の1日目が終わった後にはすぐに2日目に向けて改善点を盛り込み、ブラッシュアップしていくのが本当に素晴らしかった。私の方がみなさんに、学ばせてもらった。5人のそれぞれの個性を生かしていたし、今後また5人の縁が続いてほしい。

・佐藤 洋介 氏（村山市政策推進課地域プロジェクトマネージャー）

何かやってみたいことに対して、そこで止まらずに、一つ壁を越えてやってみるということは自分を幸せにするのかもしれない。**Link**るで、アイデアを広げ→それをまとめ→頼るところは頼って→自分達がやるべきことは整理して進めて実現する→その後、反省して次に生かす。それをやるかやらないかで、人生が変わってくるかもしれない。半年前にこの事業に参加した時点で、少し自分の幸せに近づいているのかもしれないし、今回やりきったことで、さらに近づいたかもしれない。ぜひ、こういうチャレンジや自己実現を積み重ねて行って、幸せな人生を歩んで行ってほしい。

・和田 貴充 氏（村山市教育委員会生涯学習課生涯学習主査）

Linkるでは、みなさんが主体的に活動し、活発に意見を出して自分達が考えた企画を実施できたということは、とても良かった。本番も、友達や家族を連れてきて、みんなで仲良く、上手く運営していて、初めてなのにすごいと思った。今後、大学進学や就職するときにも、今回やったことを基にして、「どうしたらイベントを開催できるのだろうか」「こうしたらいいんじゃないか」という考え方を持っていてほしい。

・渡邊 哲也 氏（大江町教育委員会教育文化課主事）

様々な方と関わりながら、「やってみたいことをカタチに」をテーマに、みなさんの力で賑わいを創ることができていた。特に、やままる祭に向けキーワードラリーは、最初の企画の段階から協力して準備を進めたことで成功し、みなさん自身も他校の生徒と学校の外でつながり充実した活動ができた実感していると思う。私も一緒に活動していて楽しいと感じた。当日は、たくさんの来場者が企画を楽しみ、良い思い出になったはず。今回の経験で得たものを自分の将来への原動力にして、次に向かって進んでほしい。そして、失敗もするかもしれないけれど、何事にもチャレンジを続けてほしい。

（3）事業の成果（○）と課題（▲）

○参画者が、自分たちのアイデアを企画化し、その実現に向けて話し合いを重ね、様々な人とながら、企画を実現できたことで、自分達の成長を実感することができた事業となった。

○ファシリテーターの皆さんが、参画者の「やってみたい」ことを引き出したり、その実現に向けて、地域団体や企業につなげたり、的確に助言をしたり、参画者の主体性を大事にしたりしながら、役割を全うしていただいたおかげで、参画者が充実感及び達成感を得た事業となった。ファシリテーターの重要性は大きいと実感するとともに、これからの地域づくりに必要な人材であることを再認識した。

▲参画者の募集にかかわり周知及び参画者の日程調整は、今後も大きな課題である。

○未来の参画者養成事業

1 開催要項とチラシ

(1) 開催要項

Murayama Young
My ボランティア
スキルアップセミナー

- ① ねらい ボランティア活動に興味関心を持つ中学生を対象に、実践活動を交えた研修を実施し、ボランティアに対する理解を深め、ボランティア活動への積極的な参加及び地域青少年ボランティアサークルへの加入促進を図る。
- ② 期 日 令和5年8月1日(火)～8月2日(水)
- ③ 主催・主管 主催 山形県教育委員会 主管 村山教育事務所
- ④ 後 援 山形県社会福祉協議会
- ⑤ 会 場 山形県青年の家(〒994-0032 天童市小路1-7-8 TEL 023-654-4545)
- ⑥ 訪問施設 羽陽学園短期大学附属たかだま幼稚園・学校法人東谷学園天童東幼稚園
社会福祉法人小百合保育園・小百合第二保育園・天童市立舞鶴保育園
天童市立さくら保育園・認定こども園天童みくに幼稚園
長岡よつば児童クラブ・干布ひまわり児童クラブ・天童南部第三学童
天童中央第四学童
- ⑦ 参加者 村山管内中学生 60名程度
・各学校の生徒会役員、ボランティア委員など今後の活動へつなげる意欲をもった生徒
・ボランティアに興味があり、これから関わっていこうと考えている生徒
- ⑧ 参加費 1,000円(食事代390円×2、保険代28円、材料代 他)
- ⑨ 内 容 ボランティア講話、実技講座(レク、手遊び、体操、工作など)、グループワーク、天童市内保育施設等でのボランティア体験実習 等

(2) チラシ

令和5年度未来の参画者養成事業

2023年 My ボランティア スキルアップセミナー

テーマ 未来への一歩
～つなぐ ひらく 見つける～

期 日 8月1日(火)・2日(水)

対 象 村山地区の中学生

会 場 山形県青年の家
〒994-0032 天童市小路1-7-8
☎ 023-654-4545

参加費 1,000円(昼食代、保険料等)

締 切 7月6日(木)

My ボランティアとは?
“MY”【私の】【私だけの】【私が行う】【私ができる】ボランティアにどんな挑戦し、人となつがる喜び、新たな道を拓く楽しさを味わい、新たな自分を見つける活動です。
このセミナーで、村山地区の若者(Murayama Young)のボランティアの輪を広げ、未来への新たな一歩を踏み出してみませんか?

【主催】山形県教育委員会 【問合せ】村山教育事務所社会教育課 (担当:黒沼 里美)
〒991-0003 寒河江市大学西根学石川西355番地
【主管】村山教育事務所 ☎0237-86-8274 ☎0237-86-8265
【後援】山形県社会福祉協議会 mail: kuronumasa@pref.yamagata.jp

主な活動内容 ※日帰り2日間の活動となります。
※日程及び内容は変更になる場合があります。

1 日 目	2 日 目
<p>【8:30～受付】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 開講式 ○ アイスブレイク 新たな仲間との出会い。心をひらき、仲間とつながろう!! ○ ボランティア講座 ボランティアとは何か?どんなことをするのか?みんなで学ぼう!! ○ ボランティア実技講座 実践に活かせるように、様々なスキルを身に付けよう!! ○ 先輩からの体験談 自分の地域にあるボランティアサークルの活動を知ろう!! ○ グループワーク 自分たちができるボランティアについて仲間と考えよう!! 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の会 ○ ボランティア体験実習 自分たちで考えたMyボランティアを各施設で実践しよう!! ○ 振り返り この2日間で学んだことをみんなで共有しよう!! ○ 閉講式 【解散14:20予定】

申込方法

希望者は、担当の先生に下記期日まで申し込みます。
7月4日(水)

担当の先生は希望者を取りまとめ、下記期日までFAXまたはメールで申し込んでください。
7月6日(木)

決定通知
参加承諾書に必要事項を記入し、担当の先生に提出してください。担当の先生は、郵送または直接お届けください。

当日参加

その他

- (1) 全日程参加できる方が申し込んでください。基本的に部分参加はできません。
- (2) 各校の申込み人数を10名程度とします。なお、申込み人数が大幅に超えた場合は、各校の申込人数及び学年を考慮して選出させていただきます。参加者が確定しましたら、学校を通じてお知らせいたします。
- (3) 参加決定者には、詳細(日程・名簿等)及び参加承諾書をお届けします。
①参加承諾書は、必要事項を記入し、保護者の押印の上、担当の先生に提出してください。
②担当の先生は、学校長の承諾を確認の上、ご提出ください。
- (4) 参加決定後のキャンセルについては、実費を負担していただくことがあります。
- (5) たくさんの人とかかわる貴重な機会ですので、できるだけ同じ中学校の人が一緒にならないような班編成を行う予定です。
- (6) セミナーで撮影する写真や映像は、後日、ホームページや記録集、ちらしなど各種資料に掲載させていただく場合があります。ご了承ください。
- (7) 不明な点については、下記担当者までお問い合わせください。

【お問い合わせ・申込先】 村山教育事務所社会教育課 (担当:黒沼 里美)
〒991-0003 寒河江市大学西根学石川西355番地
TEL ☎ 0237-86-8274 FAX ☎ 0237-86-8263

2 事業日程

(1) 日程一覧

第1日目：8月1日（火）	第2日目：8月2日（水）
8:30 受付 ※受付後、大研修室へ移動。	8:30 受付 ※受付後、体育館へ移動。
9:00 ★開講式（大研修室） ★講座「ボランティアとは？」 ・ボランティアってそもそも何？ ・ボランティアは必要なの？ ・ボランティアすると何かいいことあるの？	8:50 実習の準備・確認（体育館） — 持ち物、役割など —
9:40 ★アイスブレイキング（体育館） ・集まった人はみんな仲間。 楽しくワイワイ交流しよう！	9:00 体験実習施設に向けて出発（徒歩、バス）
10:30 ★グループワーク①（体育館） 「班の活動テーマを決めよう！！」	9:30 ★ボランティア体験実習（各施設） ・前日の学びを生かして、乳幼児や児童と積極的に交流をしよう。 — 班毎に施設を訪問して交流 —
11:00 ★実技講座①（脱み聞かせ）（各研修室）	11:30 青年の家に向けて出発
12:00 昼食（食堂）— 班毎 —	12:00 昼食（食堂）— 班毎 —
12:50 ★サークル紹介（大研修室）	12:50 ★サークル紹介（大研修室）
13:10 ★実技講座②（各研修室） ・乳幼児や児童との交流の技を学ぼう。 ・自分たちにできることを見つけよう。	13:10 ★班ごと振り返り（大研修室） ・2日間を振り返ってみよう。
14:00 ★グループワーク②（各研修室） 「企画を考えよう！！」 ・実習にむけて、何をしていくのか考えよう。	13:40 ★感想記入（大研修室）
16:15 ★班ごとの振り返り・明日の確認 ・今日の活動を、仲間とのかかわりを振り返ろう。 ・明日の実習に向けての準備を確認しよう。	13:50 ★閉講式（大研修室）
16:20 解散	14:10 記念撮影
	14:20 解散



(2) 活動の様子

①開講式



②ボランティア講話



「ボランティアとは？」をテーマに、ボランティアの意義やセミナーでの心構えなどを学びました。ボランティア3原則や今新たに求められている力など、ボランティアに対する考え方を広げる時間となりました。

③アイスブレイク 【講師：大瀧 亮 氏（メディカルスポーツ塾 Hanako 代表）】



はじめは、リズム運動で心と体をほぐし、次に、班毎に自己紹介をしました。その後、班毎にテニスボールを用いたアクティビティを行うことで、班の仲間との心の距離がぐっと縮まりました。

④ グループワーク～班テーマを決めよう！～



アイスブレイクで班の仲間と打ち解け合った後、班のテーマを話し合いました。個人の目標を共有しながら、2日間の活動テーマを決め、大判用紙にまとめました。

⑤実技講座「読み聞かせ」 【講師：読み聞かせサークル『くれよん』の皆さん（天童市）】



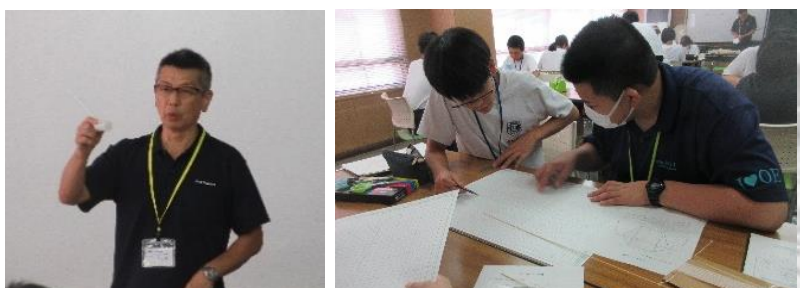
幼児向けと児童向けに分かれ、読み聞かせの演じ方や子供の心をつかむ手遊びやゲームなどを学びました。子供を前にしていると想定して、実演に挑戦しました。講座後、児童の関心を引く絵本の選定のポイントなどを質問する姿が見られました。

⑥実技講座「手遊び・体操」 【講師：ひばり保育園保育士のみなさん（村山市）】



現役の保育士さんから、子供の安全を守るために心がけていることやスキルを学びました。さらに、普段保育園で取り組んでいる手遊びや体操などを教わりました。幼児と接することを思い浮かべ、笑顔で練習しました。

⑦実技講座「手作りおもちゃ」 【講師：南部ひまわりこども園長（寒河江市）】



身近な素材を用いて、「凧」作りに挑戦しました。作り方の説明をしっかりと聞いて、材料を切ったり組み合わせたりして、オリジナル凧を完成させました。工夫次第で、様々なおもちゃが作れることを学びました。

⑧グループワーク～企画を考えよう！～



ボランティアサークル会員の高校生や大学生、市町担当者による班付アドバイザーと共に、幼児や児童の笑顔を思い浮かべ、自分たちの企画を考えていきました。

⑨ボランティア体験実習



天童市内の幼児保育施設や放課後児童クラブへ訪問し、ボランティア実習体験をしました。1日目に考えた企画の実践や子供たちとの交流など、各施設のニーズに応じて活動しました。

出発の時には、緊張した様子でしたが、帰ってきた参加者の表情は充実感に満ちていました。

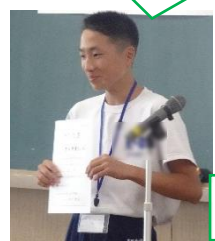
⑩グループ毎の振り返り



この2日間の活動について、班付アドバイザーと共に振り返りました。「2日間でこれまでのボランティアの考え方は変わったか?」「セミナーの活動で何を感じたのか?」などの思いを共有しました。

⑪閉講式

代表に、主催者が修了証を授与。



各参加者には、班付アドバイザーが修了証を授与。

代表の感想発表



修了証の授与、主催者あいさつ、感想発表を行いました。修了証は、班付アドバイザーより参加者に授与されました。代表から、「特別な機会や物資がなくても、自分のスキルで人を笑顔にすることができる事が分かった」とあり、このセミナーでの経験を今後活かそうとする姿が見られました。

⑫MYボランティアサークル活動紹介



自分たちの地域で活躍するボランティアサークルの存在を初めて知る参加者が多くいました。

3 参加者・班付アドバイザーの感想

(1) 参加者の感想

・ボランティアはあまりしたことがなくて、自分のために行うものだと思っていたが、誰か、何かのためにするものだと知った。今までは、ごみ拾いや掃除がボランティアだと認識していたが、小さい子の世話をしたり、バザーをしたりなどの活動もボランティアと呼べることが分かった。班の人たちも明るく接してくれて、楽しみながら、自分の目標に向かって活動することができた。本当に楽しかった。参加してよかった。

・ボランティア活動というと地域の美化活動が一番に思いつくが、今回のように幼児と関わるような、実際に人と接する活動もあるのだと知り、ボランティアへの意識が変化した。「誰のために、何のために行う活動なのかをじっくり考え、そのために、何が必要なのか、どうすればいいのか、まずは一人で、次は班のみんなで作って、計画を立てて実行する。」自分たちで活動を行うということは、とても難しいことが分かった。自発性を軸として、これからも様々な活動に自分から参加していきたい。



・学校では、先生のもと大人数で意見を出し合うため、周りに任せてしまうことがあった。このセミナーでは、少人数で企画を考えるので、自分から積極的に意見を出すことができた。また、自分たちで考えた企画で子供たちに喜んでもらえてとても嬉しかった。この活動を通して、二日間の目標である「自発性を高める」という目標を達成できた。

・ボランティアはただ活動をするだけでなく、人と人が関わっていくことで成り立っていく活動だと実感した。このセミナーを通して、私は「人が人をつないでいく」ということが未来への一歩につながっていくことだと知った。今後、この活動を忘れずに、未来へつなげられたらいいなと思う。

・今まで見返りを求めず、無償性の考え方で活動しているボランティア団体の方々は何のためにボランティアをしているのか疑問に思っていたが、このセミナーを通して、相手が喜んでくれたり、笑顔になってくれたりすることが自分にとっても価値のあるものになるんだということを知った。これからも自分のできることから進んで誰かの笑顔につながる活動をしていきたい。



・今までは、ボランティアをしてもお金や物をもらえるわけでもないから楽しくないし、何の意味があるのだろうと思っていたが、ボランティアをすることで、お金や物よりも大切な、笑顔や優しさ、仲間との絆が生まれるんだと思った。今回のセミナーでも、初めて会った友達や大人の方と仲良くできるか心配だったけれど、話し合ったり、企画したりする中で、相手のことがたくさん分かり、絆が生まれたと思う。これからは学校や地域でボランティアがあると思うので、たくさん参加したい。学校でも自分の企画などもやってみたい。

・ただ同じクラスで仲良くなるのと、ボランティアを通して仲良くなるのとでは一味違ったので、ボランティア仲間の良さを実感した。たくさんの講師の方に来ていただいたり、幼稚園の先生からアドバイスをもらったりするのは、このセミナー以外ではできない経験なので、これを無駄にせず、自分の将来に存分に活かしていきたい。

・このセミナーを通して、ボランティアに対するイメージが変わった。今まで、「ボランティア＝手伝い」のようなイメージだった。でも、今回は企画の内容を全部自分たちで考えて、学童の子供

たちを楽しませるものだったので、私自身も達成感を味わった。私はボランティアサークルに入っていないけれど、今回の活動で少し気になっているので、家族と相談して決めたいと思う。

- ・最近、自分自身たくさんボランティア活動に参加して、最初は難しくて面倒くさいイメージだった。でも、たくさん参加して、自分たちでやることを決めてから行動する楽しさが分かり、もっといろんな人と関わって、公共の人たちのお手伝いをしていきたいと思った。ボランティアをすると時間もかかるし、お金を使う場合もあるけど、それを使うぐらい価値のあることをしていると思った。これからは機会があったら積極的に行っていきたい。
- ・今回初めてボランティア活動をして、地域のごみ拾いや花植えなどとはまた違うのだと知った。このセミナーのテーマにある通り、児童と触れ合うボランティアを通して、このような活動があると見つける、自分のやりたいことをボランティアとしてつなぐ、新しいことにどんどんひらいていく、という考えで、自分も体験できた。自分たちで、子供たちの急なことにも対応できたので、このようなボランティアは、たくさんの人と交流できる大切な機会だと思う。



(2) 班付アドバイザーの感想

- ・「ボランティア」と最初に聞いたときに、中学生をただサポートするだけで、“お手伝い”という感覚のものだと思っていたけれど、実際は中学生と一緒に小学生が楽しめるように考えて、“自分で行動する”というものだったので、ボランティアのイメージが変わった。また、バラバラの年齢だったけれど、それぞれの知識、アイデアを用いて、自分たちも小学生も楽しめるようにできて良かった。これからは多くのボランティアに参加したい。
- ・中学生の時に一度だけこのセミナーに参加して、今回班付アドバイザーとして参加し、当時とは違う視点で“ボランティア”活動をするのができた。実習に行くと、その場にいると、ボランティアを通して考えさせられることの方が多く、私の中で、“している”という感覚より“させてもらっている”という感覚が変わった。班員たちと共に活動して、みんな自発性が高く、自然と意見を出しやすい雰囲気をつくっていて、企画案にオリジナルの工夫を付け足すなど、高め合うことができた。今回の活動を通して、学んだことを学校に戻っても活かしてほしい。



・試行錯誤しながら準備をし、迎えたボランティア当日。自分ができることを活かしながら子供たちと交流する様子と終わった後のやりきった表情に心うたれた。参加した生徒だけでなく、自分まで貴重な経験をさせてもらった。ボランティアと聞くと、奉仕活動や慈善事業といったイメージがあり、抵抗がある人も中にはいるのではないかと思う。今回のセミナーに参加した子たちには、MY ボラの精神を広める一人となって、周りの仲間と活躍してほしい。

- ・こんなにたくさんの中学生在ボランティア活動に興味を持ち、学校を離れ、セミナーに参加してくれていることがとても嬉しくも思った。私の班は参加者同士打ち解けるのも早く、企画もスムーズに決まり、見ていてとても頼もしかった。限られた時間の中での活動だったが、お互いにたくさん話をしながら取り組むことができ、私もとても楽しいセミナーとなった。ここで体験したことを活かし、これからは自分のできる範囲でボランティア活動をしていってもらえたら嬉しい。私も市町担当者として中高生の皆さんの活動を応援し続けたい。

4 参加者アンケート（回答数 49）

問1 今回の交流会に参加していかがでしたか。満足度を0～100（%）でお答えください。

100% 39人 95% 4人 93% 1人 90% 4人 80% 1人

主な理由

- ・班員や子供たちと仲良くなれたから。みんなと協力できて楽しかったから。
- ・自分たちの考えた企画を実際に子供たちに実践できたから。成功した時の達成感があったから。
- ・ボランティアの大切さや楽しさについて学ぶことができたから。
- ・班付アドバイザーがいてくれて活動しやすかった。
- ・地域の人や先生たちの役に立てたから。
- ・いろいろなボランティアサークルを知ることができたから。
- ・計画から実行までの中で、自主性が身に付いた。
- ・もう少し、「自分から行動」という目標を高められたらよかった。
- ・ボランティアセミナーの参加者との交流が少なかったから。

問2 今回のセミナーに参加した理由に○をつけてください。（いくつでも可）

項目	回答数	回答率
1 ボランティア活動や地域活動に興味があったから	26人	53%
2 友達に誘われて	12人	24%
3 学校の先生のすすめ	19人	39%
4 お家の方のすすめ	5人	10%
5 活動内容に興味をもった	23人	47%
6 チラシをみて興味をもった	17人	35%
7 他校の生徒と交流したかった	13人	27%
8 その他	7人	14%

生徒会からのすすめ、子供が好きだから、地域を支える活動を試みたかった、内申点

問3 今後このようなセミナーやボランティア、地域活動の機会があれば、参加したいですか。

項目	回答数	回答率
1 ぜひ参加したい	35人	71%
2 できれば参加したい	14人	29%
3 あまり思わない	0人	0
4 参加したくない	0人	0

問4 今後ボランティア活動や地域活動の企画・運営に取り組んでみたいですか。

項目	回答数	回答率
1 ぜひしてみたい	28人	57%
2 できればしたい	18人	37%
3 あまりしたくない	3人	6%
4 したくない	0人	0

7 最後に…

今年度のテーマは、『未来への一歩～つなぐ ひらく 見つける～』でした。コロナ禍で様々な活動の意義などが見直され、オンラインの有効活用についても推奨されていますが、“ボランティア”における“人と人とのつながり”の重要性は変わらず欠かせないものです。このセミナーで、どの参加者も初対面の仲間、班付アドバイザーとかかわり、「人とつながる、自分たちの可能性をひらく、新しい自分、価値観を見つける」ことができたのではないのでしょうか。このセミナーでの多くの出会いと経験が、参加者の成長の糧となったことは間違いありません。そして、今後の生活に生かして行ってほしいと願っています。

〔最上地区実践記録〕



○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1. 事業計画

(1) 組織

	氏名	所属団体・勤務先等	備考
青年ファシリテーター		東北芸術工科大学 2年	
		東北芸術工科大学 2年	
		東北芸術工科大学 2年	
		東北芸術工科大学 2年	
助言者	伊藤 洋一	新庄市役所商工観光課 企業立地・商工振興室長	ボランティア活動アドバイザー
事務局	栗田 忠男	最上教育事務所 社会教育課長	
	八城 良美	最上教育事務所社会教育課主任社会教育主事	
	高橋 裕美	最上教育事務所社会教育課 社会教育主事	
	今田 博之	最上教育事務所社会教育課 社会教育主事	

(2) 目的

- ① 地域活動に興味・関心を持っている高校生に対して、ワークショップや体験活動などをする機会を提供し、高校生の地域活動に対する理解を深める。
- ② 高校生が地域の中でできる様々な活動を実践することを通して、個々のスキルアップを図るとともに、地域づくりの次世代のリーダーとしての資質を高める。



ジモト大学パンフレット

(3) 内容および実施方法

- ① 期間 7月～2月
- ② 内容 青年ファシリテーターの助言のもと、新庄・最上地域の魅力を新発見・再発見できる様々な楽しい企画を考え、実践する。フィールドは、新庄・最上の全地域。ジャンルを問わず、自由な楽しい発想で、1日でできることを企画、運営する。
- ③ 募集ちらし

高校生への募集ちらし

ジモト大学の参加募集パンフレットに掲載

7/28,8/18,9/30 or 10/14,2/3 Youは何する？最上(てっぺん)で！

場所：ゆめりあ
2回目以降は回毎に連絡（オンライン含む）
開催者：最上教育事務所

2. 各種会議

(1) 主な内容等

①第1回青年ファシリテーター企画者会議

日時：令和5年8月4日（金）

会場：オンライン会議

参加者：青年F 2名、助言者1名、事務局4名（計7名）

主な内容：自己紹介・事業概要説明・高校生参画者への支援方法の検討

青年ファシリテーターとの顔合わせを行い、自己紹介や事業概要の説明を行った。また、助言者である伊藤洋一氏から高校生への支援方法についてのアドバイスなどをいただいた。

②第2回青年ファシリテーター会議(兼)第1回高校生参画者会議

日時：令和5年8月18日（金）

会場：オンライン会議

参加者：高校生参画者2名、助言者1名、事務局4名
（計7名）

主な内容：・プログラム説明（高校生企画者へ）
・企画、運営の支援についての説明等
・スケジュール確認
・企画の検討



高校生からの自己紹介や事業概要の説明を行った。最上地区を舞台として、やりたいことを実際にいきなり行い、発見した魅力を発信するために、どのような活動をするか検討することを説明した。その後、企画書の作成を行った。

③第3回青年ファシリテーター会議(兼)第2回高校生参画者会議

日時：令和5年9月1日（金）

会場：ゆめりあ会議室・オンライン会議

参加者：青年F 1名、高校生参画者2名、
助言者1名、事務局4名（計8名）

主な内容：高校生の企画について検討

高校生がそれぞれに考えた実践活動について、どのように活動していくかを検討した。同じ日に開催するという案もあったが、実施への負担感等を考え、鉄道旅の企画を10月14日（土）に、ラーメン作りの企画は、最上伝承野菜が育つ11月5日（日）に実施することを決めた。

④第4回青年ファシリテーター企画者会議(兼)第3回高校生参画者会議

日時：令和5年10月2日（月）

会場：ゆめりあ会議室・オンライン会議

参加者：青年F 4名、高校生参画者2名、事務局4名（計10名）

主な内容：・高校生参画者の企画書の紹介
・青年ファシリテーターからのアドバイス

それぞれの企画について、実施に向けた検討会を行った。10月14日（土）の企画は「奥の細道最上（てっぺん）ライン」とし、実施する際のルールの確認や乗り降りする電車時刻の検討、新庄駅に戻ってからのまとめの活動について検討した。

11月5日（日）の活動では、買い出し先をどのようにするか、調理場所をどこにすると買い物してからの調理が可能かなど、実施場所や買い物先の検討を行った。また、企画の中でつくるラーメンを最上総合支庁内食堂の「千起」さんに提案することを話し合った。

⑤臨時青年ファシリテーター企画者会議(兼)高校生参画者会議

日時：令和5年10月13日(金)

会場：ゆめりあ会議室・オンライン会議

参加者：青年F 1名、高校生参画者2名、事務局4名(計7名)

主な内容：・実施計画の最終確認

・青年ファシリテーターからのアドバイス



⑥実践活動Ⅰ「奥の細道 最上(てっぺん)ライン」及び第5回青年ファシリテーター企画者会議(兼)第4回高校生企画者会議

日時：令和5年10月14日(土)

会場：最上広域交流センターゆめりあ及び陸羽東線沿線

参加者：青年F 2名、高校生参画者2名、事務4名(計8名)

※内容の詳細については、「3. 地域活動プログラム」を参照

⑦第6回青年ファシリテーター企画者会議(兼)第5回高校生参画者会議

日時：令和5年10月18日(水)

会場：最上広域交流センターゆめりあ会議室

参加者：高校生参画者2名、事務局4名(計6名)

主な内容：11月5日(日)の企画について検討を行った。

11月5日(日)「最上(てっぺん)ラーメンづくり」の実施場所を決定し、準備物、投票の仕方、レシピのまとめ方などを検討した。

⑧第7回青年ファシリテーター企画者会議(兼)第6回高校生企画者会議

日時：令和5年10月28日(土)

会場：オンライン会議

参加者：青年F 2名、高校生企画者1名、事務局3名(計6名)

11月5日(日)当日の流れの確認を行った。当日だけでレシピを考案することは時間がかかると思われるため、事前に各々がおいしそう・面白そうなレシピを考案してくることとし、ライングループに、事前に試作したラーメンとレシピを掲載しておくことで、当日の検討材料にすることとした。

⑨実践活動Ⅱ「最上(てっぺん)ラーメンづくり」

日時：令和5年11月5日(日)

会場：最上総合支庁 調理室

参加者：高校生参画者1名、高校生参加者1名、お食事処千起の主人、連携支援室1名
事務局4名(計8名)

※内容の詳細については、「3. 地域活動プログラム」を参照

※実践活動は、「新庄・最上ジモト大学」のFacebook、Instagramに掲載

3. 地域活動プログラム

(1) 奥の細道 最上(てっぺん)ライン

<日時・会場> 令和5年10月14日(土)
最上広域交流センターゆめりあ・最上町内陸羽東線沿線

<高校生参画者> 2名

<活動内容>

陸羽東線の最上町の駅名が書かれたくじを引いて、新庄駅から引いた駅名の駅に出かけ、その駅の周辺を散策し、これまで知らなかった新たな魅力を発見するという企画。くじの結果、1つの班は赤倉温泉駅、もう一方の班は大堀駅になった。

赤倉温泉駅チームは、赤倉温泉街まで歩き、赤倉ゆけむり館等を見学、その後アートスペース富翔を見学した。

大堀駅チームは、大堀駅周辺を散策後、向町駅まで歩いた。向町までの道のりで太郎田観音明学院や雷神大杉を見ながら、向町駅に向かった。

新庄駅に帰ってきてから、各班が各駅の周辺マップを作成し、活動のまとめを行った。

令和5年度次世代の地域づくり中核人材育成事業(兼)新庄・最上ジモト大学

Youは何する?最上(てっぺん)で!



「奥の細道 最上(てっぺん)ライン」

- | | |
|-------|--|
| 1 趣 旨 | 最上地区を走る陸羽東線の魅力を発見し発信することで、電車利用者を増やし、赤字路線の解消の一助とする。 |
| 2 主 催 | 山形県教育委員会 |
| 3 共 催 | 新庄・最上ジモト大学 |
| 4 主 管 | 最上教育事務所 |
| 5 期 日 | 令和5年10月14日(土) |
| 6 会 場 | 最上広域交流センター「ゆめりあ」
〒996-0024 新庄市多門町1-2 TEL0233(28)8888
陸羽東線の新庄駅～堺田駅の駅周辺 |
| 7 対 象 | Youは何する?最上(てっぺん)で!企画参加者・ジモト大学参加者 |
| 8 経 費 | 各 自 (参考 新庄から堺田往復(最も遠い駅の場合)の往復料金1,540円(片道770円)、その他に昼食代、買い物代などを準備してください。)
※保険については、ジモト大学参加者は登録時に加入しています。それ以外の高校生は、地元大学に登録するかイベント共催(24円)に加入して頂きます。 |



赤倉温泉駅付近で見つけた吊り橋

9 日程・内容

9:30 9:35 9:45 10:00

14:12 15:30 16:00

<活動内容>

- ① 降りる駅を決めるくじ引き
- ② 降りた駅周辺の探索
- ③ 最上の駅周辺魅力発見マップを作製し、まとめの活動
- ④ 後日最上広域交流センターゆめりあに、作った魅力発見マップを掲示



新庄駅（最上広域交流センターゆめりあ）で、どの駅に向かうかくじ引き。



大堀駅の駅舎内で、どこに向かうか検討した。



魅力を探して、移動中。秋晴れの中隣の駅（最上駅）まで移動した。



赤倉温泉内の「赤倉ゆけむり館」で温泉卵をつくりながら休憩。



魅力発見マップに活動内容をまとめた。



「最上広域交流センターゆめりあ」花と緑の交流広場に掲載し、情報を発信した。

(2) 最上(てっぺん) ラーメンづくり

<日時・会場> 令和5年11月5日(日) 最上総合支庁

<高校生参画者> 1名

<高校生参加者> 1名

<活動内容>

旬の最上传承野菜を使ってラーメンをつくり、その中から投票により最上(てっぺん) ラーメンを決め、決めた最上(てっぺん) ラーメンを最上総合支庁内食堂の「お食事処千起」さんに提案するという企画。事前に青年ファシリテーターからのアイデアも取り入れ、4種類のラーメンを試作し、参加者一同で試食しました。当初は、最も票を集めた1つを「千起」さんに提案予定だったが、4種類のアイデアをすべて取り入れたものを3種類のラーメンとして、後日「千起」さんの週替わり定食として提供していただいた。まとめの活動として、作った4種類のレシピを作成した。

令和5年度次世代の地域づくり中核人材育成事業(兼)新庄・最上ジモト大学

Youは何する?最上(てっぺん)で!

「最上(てっぺん) ラーメン作り」



- 1 趣 旨 最上地区でつくられるものを使って、おいしいラーメンを作り、発信することで最上地区の野菜・食材からこういうものを作られることを知ってもらおう。
- 2 主 催 山形県教育委員会
- 3 共 催 新庄・最上ジモト大学
- 4 主 管 最上教育事務所
- 5 期 日 令和5年11月 5日(日)
- 6 会 場 最上総合支庁舎 調理室 〒996-0002
新庄市金沢字大道上2034
- 7 対 象 Youは何する?最上(てっぺん)で!企画参加者
- 8 参 加 料 (予定) 500円
※保険については、ジモト大学参加者は登録時に加入しています。それ以外の高校生は、ジモト大学に登録して頂きます。

9 日程・内容(予定)

9:00 9:10 9:30 11:00 12:00 13:00 14:30 14:40 15:00

集 合 ・ 受 付	開 会 式	計 画	食 材 の 購 入	調 理 開 始	試 食 会	投 票 会	片 付 け	ま と め の レ シ ピ 作 成	閉 会 式	終 了 ・ 解 散
-----------------------	-------------	--------	-----------------------	------------------	-------------	-------------	-------------	---	-------------	-----------------------

10 服装 調理に適した服装(エプロン、三角巾、マスク)

11 持ち物 参加費・飲み物

<活動内容>

- ① 事前に計画したものも含めて、作るラーメンを計画。
- ② 必要な食材の買い物
- ③ 最上(てっぺん)ラーメンづくり。
- ④ 試食を行い、投票して、最上(てっぺん)ラーメンを決める。
- ⑤ まとめレシピをつくる。



令和5年度次世代の地域づくり中核人材育成事業
(兼)新庄・最上ジモト大学
Youは何する?最上(てっぺん)で!

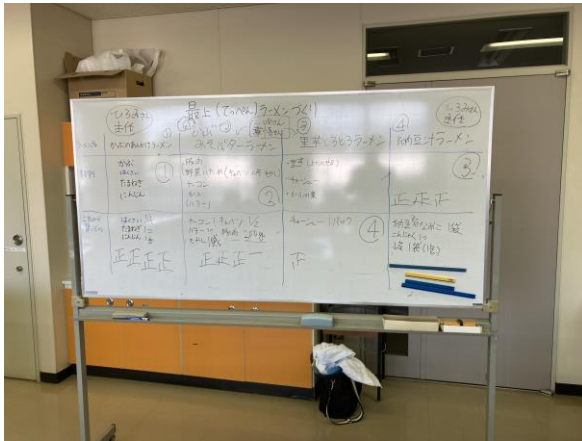
最上(てっぺん)ラーメンづくり

上記事業に参加していただいた山形県立東校学館高校1年 高橋一吹さん・芦原章梧さん、青年ファシリテーターの小松真由さん・白木里奈さんが考えた「最上传承野菜」を使ったラーメンを最上総合支庁食堂「お食事処千起」の週替わり定食で提供します。ぜひ食べてみてください。



11/13~11/17
・最上かぶのあんかけラーメン
11/20~11/24
・米さずべ芋の納豆味噌ラーメン
11/27~12/1
・最上かぶとヤーコンの味噌野菜ラーメン

千起さんに掲載したポスター



ホワイトボードを使って、作るラーメンを検討。
4種類のラーメンを試作することに決定。

普段なかなか料理はしないとのことだが、手際よく調理に取り組んだ。



考案した「最上かぶとヤーコンの味噌野菜ラーメン」

高校生企画者が、考案理由などを説明し、4種類のラーメンを試食



「お食事処千起」で提供された「最上かぶとヤーコンの味噌野菜ラーメン」

「米さずべ芋の納豆ラーメン」アンケートには、米さずべ芋を初めて食べたという方が多くいた。

(3)最上地区ヤングボランティア交流会 & フェスティバルへの参加による「You

は何する？最上(てっぺん)で！」の成果発表とブース運営

<日時・会場> 令和6年2月3日(土) 最上広域交流センターゆめりあ

<高校生企画者> 2名

<高校生参加者> 7名

<活動内容> 最上地区ヤングボランティア交流会&フェスティバルに参加し、これまで実施した企画をポスター発表で紹介した。午前中は、交流会に参加し、午後からは、フェスティバルのなかのブース運営を行った。ブースは3つの内容を企画し実施した。1つは、最上ラインの活動から電車のペーパークラフトづくり。2つめは、最上ラーメンづくりの活動からオリジナルラーメン工作。3つめに新規参加高校生の希望から、トランプ、ウノのカードゲームを参加者に体験してもらった。



「Youは何する？最上(てっぺん)で！」ブースで工作やカードゲームをしながら、子ども達と交流した。

4. 事業振り返りとまとめ

(1) 成果<○>と課題<▲>

=目的について=

○それぞれの高校生企画者が目的として掲げたことについて達成することができた。鉄道の企画では、陸羽東線沿線の魅力発見マップとして、最上広域交流センターゆめりあを訪れた方に発信した。また、ラーメンの企画では、「お食事処千起」さんでのラーメン提供を通して、たくさんの方々に最上伝承野菜の魅力を伝えることができた。

▲高校生企画者参加が3名と少なかった。各自の企画を進めることにはプラスの点もあったが、企画に対して意見を伝え合うことや一緒に活動することでは、もっと参加人数が多いことが望ましかった。企画と企画への参加共に参加者の募集について工夫したい。

=運営について=

○高校生企画者と事務局、青年ファシリテーターがお互いに意見や考えを伝えながら、企画を進めることができた。

▲オンライン会議を中心に企画会議を進めた。どこからでも参加しやすいという利点はあったが、場合によって参集とオンラインとを使い分け、より話し合いのしやすい環境をつくることも大切であった。また、臨時の会議をすることもあったので、計画的に進めていく必要があった。

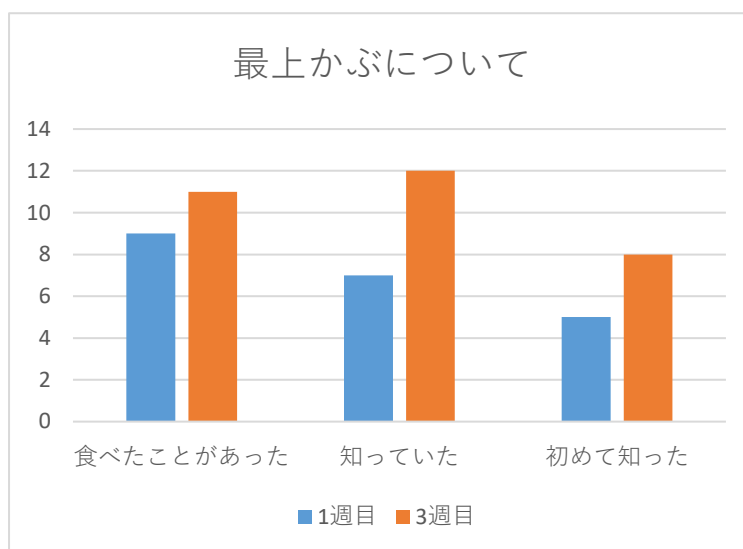
(2) 参加した高校生から

- ・計画の難しさやそれを乗り越えた時の楽しさが分かった。
- ・料理をまともにしたことのない自分が、地元の食材コーナーを見るようになり、食材の活用法を考えるようになった。
- ・創意工夫で、地産地消は可能であることが分かった。

(3) 最上（てっぺん）ラーメンを食べてくれた方のアンケートから

- ・とてもおいしかったです。今後も伝承野菜を用いたメニューを楽しみにしています。
- ・毎週工夫を凝らした伝承野菜のメニュー提供、ありがとうございます。いつも、おいしくいただいています。
- ・焼いたかぶの香ばしさとみそがとてもあっておいしかったです。ヤーコンの甘みも良かったです。
- ・この度は、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。息子が考えたレシピをこのようにおいしくアレンジしていただいた千起様、スタッフ様にも感謝いたします。ごちそう様でした。
(企画した生徒の保護者)

※延べ67名の方からアンケートに回答いただいた。



(4) 青年ファシリテーターから高校生の皆さんへ応援メッセージ

K・M（東北芸術工科大学2年）

青年ファシリテーターを務めさせていただいた、こまです！最上ラーメンづくりには残念ながら参加することはできなかったのですが、企画ができるまでのプロセスに参加することができたのは、とても貴重な経験でした。企画で考案されたラーメンを、実際に最上総合支庁に伺い、食べてみたのですが、とても美味しかったです。また、最上ラインの企画では、実際に参加し、高校生や職員の方と話しながら、最上地域を探索したことで、知らない土地であった場所に、みなさんとの思い出ができ、愛着が湧くようになりました。お二人とも、学業との両立もあり、実施まで大変だったと思いますが、おつかれさまでした。

こういった自分で企画立案から実施までの経験ができる環境は、地方ではあまりないと思うので、今後も自分のやりたい思いに忠実に、様々なことに挑戦してほしいと思います。また、機会がありましたら、ぜひよろしく願いいたします。短い期間でしたが、ありがとうございました。

S・Y（東北芸術工科大学2年）

今回「Youは何する？最上（てっぺん）で！」で初めてファシリテーターとして参加させていただきました。活動に深く関わることができませんでしたが、地域に対して熱い思いを持って活動している高校生の皆さんの様子から私自身も良い刺激をもらえたように感じます。また、この活動に参加したことが新庄を知る良い機会にもなったように感じます。自分たちで企画して実行するまでにさまざまな課題にぶつかり、スムーズに行かないことが多々あったかと思いますが、実行するところまでできたことは大きな自信になったかと思っています。このような活動は、地域にも自分にも良い影響を与えると思うので引き続きがんばって欲しい

と思います。今後もこのような活動がありましたら、ぜひ関わらせて頂きたいと思っているのでよろしくお願いします。

S・I（東北芸術工科大学2年）

今回はこのような貴重な機会をいただき誠にありがとうございます。「Youは何する？最上（てっぺん）で！」に参加したことで様々な学びがありました。自分にとって初めての試みばかりでしたので、今思えば色々と至らぬ点もあったかと思えます。ですが自分とは違う立場の方々と共に活動していく中で新しい価値観に触れ、新しいまちの一面を知る度に何度も「最上のことを何も知らないなあ」と実感していました。いつかゆっくり最上を観光したいと思うきっかけにもなったこの活動は、とても有意義で充実した時間でした。是非また機会があれば参加したいです。

S・R（東北芸術工科大学2年）

今年度ファシリテーターとして関わらせていただき、ミーティングを重ねて高校生や地域の大人の方々と大学生と一緒に企画をつくりあげていきました。

オンラインでのみの参加できたが、企画をつくりあげる上で高校生のやりたいやワクワクを引き出し話し合いの場に還元させていくこと、大学生という大人より少し身近な存在として何かしらのエッセンスを加えることができたのであれば嬉しいです！

今回は大学の授業を通しての参加となり、大学で学んでいることをアウトプットできる良い機会となりました。今後も高校生の活躍を祈っています！

5. 参加者アンケート 回答者数：10名

問1 このプログラムを選んだ理由を教えてください。（複数選択可）

- ・プログラム内容に興味・関心があったから。6
- ・地域の人と関わりをもてそうだったから。3
- ・先生や親などから勧められたから。3
- ・参加しやすい日程、場所だったから。3
- ・友人が選んだから ・その他（招集されたから）

問2 どのようなことを学んだと思いますか。

- ・計画の難しさやそれを乗り越えた時の楽しさ。
- ・料理をまともにしたことのない自分が、地元の食材コーナーを見るようになり、その食材の存在自体を初めて知ったり、その活用を考えたりした。
- ・創意工夫で地産地消は可能であること。
- ・地域のいろんな人とのかかわり方。
- ・地域の人が交流のためにどのような活動を行っているのかを学んだ。
- ・地域の人がそのような交流をしているのを直に見て、実感することができた。
- ・人とかかわる楽しさを学べた。
- ・様々な人とのコミュニケーションの取り方を学べた。
- ・人との交流の楽しさを学べた。
- ・地元には何があるのかや、ボランティアの大切さ。

問3 良かった点を教えてください。（複数選択可）

- ・今まで知らなかった地域の魅力を知ることができた6
- ・活動に参加して自分自身が成長できた。6
- ・地域の大人の人と活動できてよかった。6
- ・普段、学校ではできない経験ができた。6

- ・他校の生徒との交流の輪が広がった 3
- ・将来を考えるきっかけになった

問4 もっと地域のことを勉強したり、地域とかかわりを持ちたいと思いましたが。

- | | | | |
|------------|---|-----------|---|
| 1. とてもそう思う | 4 | 2. そう思う | 6 |
| 3. あまり思わない | 0 | 4. 全く思わない | 0 |

問5 またこの事業に参加したいと思いましたが。

- | | | | |
|------------|---|-----------|---|
| 1. とてもそう思う | 2 | 2. そう思う | 8 |
| 3. あまり思わない | 0 | 4. 全く思わない | 0 |

問6 どのような事業があったら、また参加したいと思いますか。

- ・もう少し短い期間で出来るもの。
- ・その時に考えてみて、やりたいことをやる事業。
- ・地域とのかかわりが強く、面白そうなもの。
- ・何かをつくって教えたりするプログラム。
- ・子ども達と身体を動かして遊べるプログラムがあれば楽しいと思いました。
- ・小さい子とかと交流があるとまた参加したいと思います。
- ・他校との交流が深まるプログラム
- ・もっと地域の方と交流できるような活動。・課外活動。
- ・いろいろな人と関われるプログラム。

問7 将来、地元とどのように関わっていきたいですか。

(問8 問7の理由を教えてください。)

- ・地元からいったん出るがいずれ地元に戻ってきたい。 5
(・他の所に住んで最上地域にないものを探したいから。)
- (・自分から地域活性化の意識を持たないと、現状が変わらないから。)
- (・新庄が好きだから) (・地元が好きだから)
- (・自分の住んでいた新庄市は、一番落ち着くから。)
- ・地元には残らないが何らかの形で地元に関わっていきたい。
(・なりたい職業が地元にないため。)
- ・地元に残りたくない
(・他の地域に興味があるから。)
- ・まだわからない 3
(・人生は安定しないから。)
- (・大学は山形を出ようと思っているが、その後のことは未定のため。)
- (・自分のやりたいことをして生活したいと思っているけど、あまり残りたいとか考えていないから。)

○未来の参画者養成事業

1 開催要項とチラシ

(1) 開催要項

- 1 趣 旨 地域の課題を解決したり、魅力を発信したりしてよりよい地域社会をつくっていく上で、中学生などの青少年も地域の一員として、ボランティア活動などを通じた活躍が期待されています。本セミナーでは、交流やボランティア体験などを通じて、ボランティアの意義や楽しさについて理解を深め、ボランティア活動や地域貢献活動への意欲と実践力の向上を図っていきます。
- 2 主 催 山形県教育委員会
- 3 共 催 最上地区生涯教育推進協議会
- 4 主 管 最上教育事務所
- 5 期 日 令和5年8月2日(水) 9時30分～16時15分(受付9時～)
- 6 会 場 最上広域交流センター「ゆめりあ」他 〒996-0024 新庄市多門町1-2
TEL0233(28)8888
- 7 対 象 最上地区の中学生 40名程度
- 8 参 加 料 600円(保険代・弁当代)
- 9 日 程・内 容

8/2 水	9:30	10:00	10:30	11:00	12:20	13:00	16:00	16:15
	受付	開講式	講話	紹介 サークル	スキルアップ講座	昼食	フィールドワーク	閉校式

※日程は都合により変更となる場合もあります。あらかじめ御了承ください。

- 10 服 装 活動できる動きやすい服装・歩きやすい靴
- 11 持 ち 物 参加費、筆記用具、飲み物(水筒またはペットボトル)
- 12 申 込 み (1) 参加を希望する生徒は、チラシに添付されている「参加申込書」に必要事項を記入し、7月12日(水)まで担任の先生に提出してください。
(2) 学校ごとに地域学校協働活推進員等を通して、各市町村教育委員会青少年ボランティア担当者まで提出してください。
- 13 申込期限 令和5年7月18日(火)(最上教育事務所締め切り)
- 14 そ の 他 (1) 当日撮影する写真は、記録集やポスター等で活用させていただく場合があります。
(2) 送迎が必要な場合は、保護者の方にご対応願います。
(3) 参加申込書に記載された個人情報等は、本事業のみに使用いたします。
- 15 問合せ先

最上教育事務所社会教育課 担当：高橋裕美 TEL 0233(29)1442

令和5年度 未来の参画者養成事業

「最上地区 中学生ボランティアセミナー」



踏みだそう はじめの一歩！



日時：令和5年8月2日（水）
会場：ゆめりあ 他
対象：最上地区中学生：40名程度
高校生スタッフ：10名程度



学校申込み締め切り
7月12日（水）
教育事務所申込み締め切り
7月18日（火）



スキルアップ講座、講話、ボランティア活動の体験など盛りだくさんの企画です。高校生ボランティアサークルで活動している高校生と一緒に、ボランティアについて楽しく学んでみませんか？



問い合わせ：最上教育事務所 社会教育課（高橋）TEL 0233-29-1442

Question:最上地区には全市町村に高校生ボランティアサークルがあります。それぞれユニークなサークル名がついていますが、その名前は何でしょう？（ヒントはこの中のイラストにあります。）セミナー当日も、ボランティアサークルを紹介します。

2 事業日程

令和5年度最上地区中学生ボランティアセミナー日程表

8月2日(水)		
時間	プログラム	場所
9:00	受付	アベージュ前
9:30	【開講式】 進行:八城主任 1 開会 2 主催者あいさつ(栗田課長) 3 指導者自己紹介 4 日程説明(高橋裕) 5 閉会	アベージュ
10:00	【ボランティア講話】 齋藤 彰 氏	アベージュ
10:30	【ボランティアサークル紹介】 ※4サークルずつ2回に分けて実施	会議室
11:00	【スキルアップ講座】 A 工作・折り紙 1班・2班・3班 B 図書館 4班 C アイスブレイク 5班・7班 D モルック 6班	A 雪の里情報館 B 新庄市立図書館 C ゆめりあ会議室 D 交流広場
12:20	昼食	ゆめりあ会議室 など
13:00	【フィールドワーク】移動開始 ①はぐくみ ⑤コスモスロード→新庄学童へ ②明倫学童 ⑥サロン→明倫学童へ ③新庄学童 ⑦万場町山車 ④図書館	各活動場所へ ①はぐくみ ②明倫学童 ③新庄学童 ④新庄市立図書館 ⑤指首野川(堀端町) ⑥吉袋公民館 ⑦万場町公民館
15:30	※ゆめりあに戻り次第、振り返りの記入をする	アベージュ
15:50	【閉講式】 進行:主任 1 開会 2 修了証授与(栗田課長) 3 講評(青年の家 齋藤研修課長) 4 参加者代表感想発表 5 主催者あいさつ(沼澤最生協会長) 6 諸連絡(高橋裕) 7 閉会	アベージュ
16:15	記念撮影	
	※帰宅確認(保護者送迎以外の参加者)	

3 参加者の感想

フィールドワーク：放課後児童クラブ

- 私は普段小さい子と触れ合うことがあまりありませんでした。けれど、今日、学童の子どもたちと触れ合うことで、とても楽しい時間を過ごすことができ、良かったです。
- 放課後児童クラブのみなさんと折り紙や工作をして、とても喜んでくれていてうれしかったです。そして、子どもたちはとても元気で、教える時とても大変でした。あまり小さい子と関わることがないので、とても貴重な体験ができて良かったです。また機会があったら参加したいと思いました。



フィールドワーク：コスモスロード（講話）

- ボランティアをしたら、いろいろな人と仲良くなったり交流したりできて、いろいろな人が笑顔になれました。地域の人の気持ちを聞くこともできて良かったです。
- 今日のセミナーを通して、初対面の人とのかかわり方を学びました。また、コスモスロードを創る会の方の話聞いて、自分の知らないところで、少しでも環境を良くしようとしている人がいることを知ることができました。
- ボランティアにもいろいろな種類があり、そのためにどのような活動をしているのかが分かりました。ボランティアセミナーに参加してみて、ボランティアとは何かを学ぶことができました。アイスブレイクなどのコミュニケーションの取り方も知ることができて、これから活用してみたいと思いました。
- ゴミなどがあつたら拾い、川を守る行動をしていきたいと思いました。
- 私たちが普段生活している中でできることがたくさんありました。川をきれいにすることで、いろいろな植物が生えて、生物も育つことができるということを学びました。

フィールドワーク：山車作り



- スキルアップ講座のアイスブレイクで、お互いのことを知れて緊張がほぐれてからフィールドワークに入れたので良かったです。山車作りの大変さが分かりました。自分の住んでいる地域の山車作りにも参加したいと思いました。夏休みの1日を有意義な日にできたので良かったです。
- アイスブレイクをしたり、山車に付ける短冊を作ったりしました。山車作りについては、人手が足りなくなっていることを知りました。

自分が住んでいる地区は山車作りは行いませんが、機会があったら積極的に参加したいなと思いました。アイスブレイクでは、いろいろなゲームを知ることができたので、それを学校などで生かしたいなと思いました。

フィールドワーク：図書館

- 地域ごとにたくさんのいろいろなボランティアがあり、たくさんの方がボランティア活動に参加していることが分かりました。図書館では、本のコーティングを体験し、本の並べ方も知ることができました。またこのような機会があれば、参加したいです。
- 勉強する人のために2階に辞書を多く置いたり、お年寄りのために医療の本を1階に多く置いたり、たくさんの配慮をしていることが分かりました。

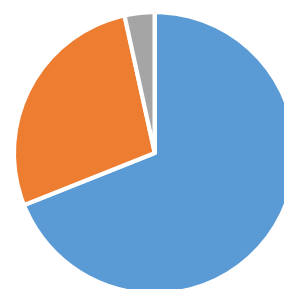


4 参加者アンケート

①なぜこの事業に参加しようと思いましたか。

	回答数(人)	回答率
1 学校で配付されたチラシ	20	69%
2 先生からの紹介	8	27.6%
3 友達からの紹介	1	3.4%
4 その他	0	0.0%
5 無回答	0	0.0%

参加のきっかけ



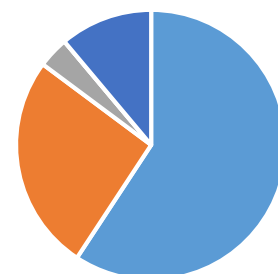
- 1 学校で配付されたチラシ
- 2 先生からの紹介
- 3 友達からの紹介
- 4 その他

②セミナーの活動を通して、気づき、学び、発見などはありましたか。

◆ボランティア講話 満足度 90.6%
N= 27

	回答数(人)	回答率
1 たくさんあった	16	59.3%
2 ややあった	7	25.9%
3 あまりなかった	1	3.7%
4 なかった	0	0.0%
5 無回答	3	11.1%

ボランティア講話

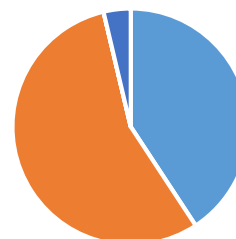


- 1 たくさんあった
- 2 ややあった
- 3 あまりなかった
- 4 なかった
- 5 無回答

③今後、ボランティア活動や地域活動に参加したいですか。

	回答数(人)	回答率
1 参加したい	11	40.7%
2 できれば参加したい	15	55.6%
3 あまり参加したくない	0	0.0%
4 参加したくない	0	0.0%
5 無回答	1	3.7%

ボランティア活動への参加

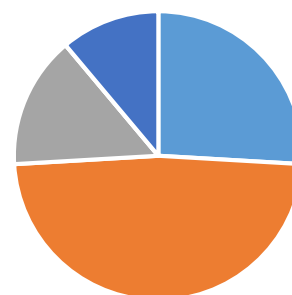


- 1 参加したい
- 2 できれば参加したい
- 3 あまり参加したくない
- 4 参加したくない
- 5 無回答

④今後、ボランティア活動や地域活動に参画したいですか。

	回答数(人)	回答率
1 参画したい	7	25.9%
2 どちらかというと参画したい	13	48.1%
3 どちらかというとならしたくない	4	14.8%
4 参画したいと思わない	0	0.0%
5 無回答	3	11.1%

ボランティア活動への参画



- 1 参画したい
- 2 どちらかというと参画したい
- 3 どちらかというとならしたくない
- 4 参画したいと思わない
- 5 無回答

〔置賜地区実践記録〕



○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1 事業計画

(1) 組織

No.	ファシリテーター	所 属 等	備 考
1	土 屋 孝 俊	長井けん玉のふる里プロジェクト実行委員長 【長井市】	
2	佐 藤 千 恵 美	川西町こども食堂「なかよしキッチン」代表 【川西町】	
3	金 東 玉	一般財団法人 文教の杜ながい 【長井市】	
事務局	佐 藤 健	置賜教育事務所社会教育課社会教育課長	
	阿 部 文	置賜教育事務所社会教育課主任社会教育主事	
	梅 津 恭 子	置賜教育事務所社会教育課社会教育主事	
	秋 山 憲 司	置賜教育事務所社会教育課社会教育主事	主担当
	渋 間 旭	置賜教育事務所社会教育課社会教育主事	副担当
	船 山 遼 一	置賜教育事務所社会教育課社会体育主事	

(2) 目的

地域活動に興味関心の高い中高生や青年が、青年ファシリテーターの指導・助言の下、講義や体験、企画・運営等の実践を通じて、地域活動への理解を深め、地域づくりの次世代リーダーとしての資質を高める。

(3) 内容及び実施方法

① ファシリテーターの委嘱・企画運営

参画者と事業の企画立案、協力者との折衝、事業の広報と参加者勧誘、取りまとめ、当日の運営、事業のふり返り

② 実践活動の開催

《令和5年度置賜地区中高生ボランティアセミナー》

- ・期 日：令和5年8月2日（水）
- ・会 場：飯豊少年自然の家 白樺学童クラブ（飯豊町）
- ・対 象：置賜地区在住の中学生・高校生
- ・内 容：地域づくり活動についての勉強会、実技研修、ボランティア活動等

《おきぼら地域クリエイターcrossover 地域活動実践》

- ・期 日：令和5年10月29日（日） 川西町農村環境改善センター（川西町）
- ・対 象：川西町在住の中学生以下の子どもとその保護者 60名程度
- ・内 容：川西町こども食堂なかよしキッチンでの企画実践

2 各種会議（ファシリテーターの打合せ・参画者会議事録）

回	日 時	会 場	参加者	内 容
第1回	7 / 1（土） 10:00～11:30	旧長井小学校第一校舎	ファシリテーター 3名 教育事務所 1名	第1回ファシ打ち合わせ ○自己紹介 ○事業説明（置賜） ○協議 ・参画者会議の持ち方 ・連絡方法と手段の確認

第2回	9 / 17 (日) 9:00~11:30	川西町農村 環境改善セ ンター	ファシリテーター 3名 参画者 7名 教育事務所 2名	第1回参画者会議 ○協議 ・活動内容について
第3回 ①	10 / 3 (火) 19:30~20:30	Zoom 会議	ファシリテーター 1名 参画者 4名 教育事務所 1名	第2回参画者会議 (Aグループ) ○協議 ・活動内容の詳細検討
第3回 ②	10 / 6 (金) 19:30~20:30	Zoom 会議	ファシリテーター 2名 参画者 3名 教育事務所 1名	第2回参画者会議 (Bグループ) ○協議 ・活動内容の詳細検討
第4回	10 / 28 (土) 13:00~16:00	川西町農村 環境改善セ ンター	参画者 6名 教育事務所 2名	第3回参画者会議 ○当日の流れ確認 ○前日準備

3 地域活動プログラム

(1) 参画者募集について

令和5年度の置賜地区次世代の地域づくり中核人材育成事業は、高校生の想いやファシリテーターの経験等を融合して新たなものを創り上げる取り組みとするため、「おきぼら地域クリエイターcrossover」と銘打ち募集を行った。

令和5年度 次世代の地域づくり中核人材育成事業

おきぼら 地域クリエイター crossover

「想い」を「カタチ」にかえてみませんか？

置賜で活躍するファシリテーターと
地域活動に取り込む長期プロジェクト！

- キックオフイベント**
中高生ボランティアセミナーに参加して、ボランティアのスキルを身に付けよう！
8月2日
- 企画会議**
どんな活動を行うか、仲間やファシリテーターと考えよう！
8月9日
- 活動準備**
地域活動に向けた準備に取り組みよう！
10月
- 地域活動体験**
企画した活動に仲間と共に取り組もう！
11月

高校生参画者募集!! 申込締切 7.18(火)
定員10名 ※応募者多数の場合は抽選となります

主催：山形県教育委員会 / 主管：置賜教育事務所

Facilitator ファシリテーター

高校生の活動をサポートしてくれる3名のファシリテーターを紹介します！

土屋 孝俊さん 長井けん玉のふる里プロジェクト実行委員長
長井市出身。競技用けん玉生産1位の長井市でけん玉を使ったまちづくりをしています。イベントの企画運営、長井市のPR、ブース出店、けん玉教室等。高校生目線から見た置賜の魅力を開かせて頂き、一緒に発信していきます！

佐藤 千恵美さん 川西町こども食堂「なかよしキッチン」代表
川西町出身。2019年にママ友と子ども食堂を立ち上げました。食品ロス削減を食糧した食育、再利用を目的とした子供服おゆずり会など、子ども食堂を通してSDGsに取り組みんでいます。置賜で子どもの居場所づくりを広げていくために、皆さんと一緒に活動してみませんか。

金 東玉さん 一般財団法人 文教の社ながい
韓国出身のデザイナー。長井市の「文教の社ながい」で広報&デザインの仕事をしながら、「アマフラン」というアート・コレクティブで活動中。置賜の魅力を大切に、デザインの力で心温まる地域を広げたいです。皆さんと共に未来を創り上げましょう！

事業の内容と日程 について

キックオフイベント「置賜地区中高生ボランティアセミナー」
日時：8月2日(水)9:30~15:40
場所：飯豊少年自然の家 白鳩学童クラブ
内容：パルーンアートや政ボール空手道などのスキルを身に付け、学童の小学生たちと交流しよう！

地域活動体験プログラム「おきぼら地域クリエイターcrossover」
日時：8月~10月(企画会議・準備)、11月(地域活動体験)
場所：川西町こども食堂なかよしキッチン(川西町農村環境改善センター)予定

お申込み・お問い合わせ
お申込みの方は下記電話番号にお電話いただくか、右のQRコードを読み取り、申込フォームに必要事項を記入の上、送信ボタンを押してください。
置賜教育事務所 社会教育課(担当：秋山)
Tel:0238-88-8242 Mail:fakijyaken@pref.yamagata.jp

令和5年度次世代の地域づくり中核人材育成事業 高校生参画者7名

<活動の様子>

【企画準備】



事前に高校生のみでカードゲームのリハーサルを行いました。



ホワイトボードにイラストを描いて、新聞紙迷路の完成です！

【SDG s ババぬきカードゲーム】



小さいお子さんもお家の人と一緒にゲームをしました。



高校生も一緒にババぬきを楽しんでいます。

【なぞとき迷路】



川西町に関する問題を解きながら迷路を進んでいきます。



迷路が込みすぎないように、高校生が上手に調整しています。迷路、大人気です！

【昼食準備】



昼食のメニューは、カレーライス、大学芋、鶏団子の中華スープでした。

【ビンゴ大会】



高校生が上手に盛り上げて、楽しいひとときとなりました。

【ビリビリタイム】



3時間かけて作った迷路も、あっという間にご覧の通り。でも、みんな楽しそう。



破った新聞紙を袋にまとめました。片付けまでがんばった子ども達です。

4 事業振り返りとまとめ

(1) 高校生アンケート結果より

回答者数：7名

問1 あなたはなぜこの事業に参加しようと思いましたか。(複数回答可)

項目	人数 (人)
①地域活動に興味があったから	5
②学校や先生のすすめで	5
③友達に誘われて	0
④お家の方のすすめで	0
⑤知り合いのすすめで	0
⑥活動内容に興味を持ったから	3
⑦チラシを見て興味を持ったから	2
⑧青年や他校の生徒と交流したかったから	0
⑨その他	1

問2 なかよしキッチンでの地域活動を体験してみて、当てはまるもの一つに○をつけてください。また、どんな感想を持ちましたか。

項目	人数 (人)
①たいへん良かった	7
②良かった	0
③あまり良くなかった	0
④良くなかった	0

(記述より)

- ・ 普段、接することのない小学生と関わって良かった。
- ・ 様々な人と接することができてとてもいい機会だった。自分たちで企画するところから運営まで携わったものをたくさんの人に喜んでもらえて嬉しかった。やりがいや達成感も味わうことができたのでとても良かったと思う。
- ・ 小さい子と遊びながら会話したり、コミュニケーションをとったりできて良かった。いろいろな人がいて勉強になった。
- ・ なかよしキッチンでの地域活動は初めてだったけど、私たちが考えた内容を子どもたちが楽しんでくれたので良かったし、私自身も嬉しかった。また、子どもたちの笑顔も見ることができて良かった。
- ・ 初めて出会った仲間と一つのことを協力してやるのはとても緊張したけど、みんな優しく楽しく活動できて良かった。チームで計画したものを遊んでもらって、嬉しかったと子ども達が言ってくれたり、保護者の方とお話しできたりして嬉しかった。人々の優しさ・温かさにふれることができた。
- ・ なかよしキッチンでの地域活動を体験してみて、私自身、こういう活動は初めてだったのもあり、不安な場面も多かったが、活動を通して川西町のことについてもふれることができたり、参画者としての経験を得ることができたり、何より企画でお子さんたちが喜んでくれたのが嬉しかった。
- ・ 今日は一緒に活動してきた高校生と、なかよしキッチンに来てくださった子ども達や保護者の方々と楽しむことができ、大きな達成感を得られた。私自身、人と関わるのが苦手な最初はとても不安だったが、先輩方がとても優しく、準備も今日の活動も楽しみながら行うことができて良かった。また、普段から小さい子と関わる機会はないので良い経験となった。

問3 この事業に参加して、これからも地域活動に参画したいと思いませんか。

項目	人数 (人)
①参画したい	7
②どちらかという参画したい	0
③どちらともいえない	0
④どちらかという参画したくない	0
⑤参画したくない	0

問4 今後、自分がやってみたい地域活動や継続して取り組んでいきたい活動がありましたら書いてください。また、全体を通して感想や要望があれば自由に記入してください。

- ・ 子ども食堂の手伝い、バルーンアート
- ・ 楽しく地域活動に参加できて良かった。今、自分は少子化問題に興味を持っているので、今回の活動のように子どもと触れ合いながら地域を盛り上げられるようなイベントには積極的に参加してみたいと思う。
- ・ 長期で他校の人と交流しながら企画したり、活動をしたりしてとてもいい経験になった。この活動で得たことを今後にもいかしていきたい。
- ・ 地元の小学校へ行って交流したい。

- ・自分の町にあるんだとしたら協力したいし、まだなかったら自分たちで計画して地域の人々のコミュニティづくりができたらいいなと思った。初めて出会う人と何かをしていくというのは今後の活動のためにもすごく良い経験になったと思う。もっと多くの人にも参加してもらいたいと思う。地域づくりなど、自分の課題研究において地域の人どうしのつながり、コミュニティ形成についてヒントをもらうことができた。
- ・全体を通して学びの多い活動だったと私自身感じていて、とても有意義な経験になったと思います。ただ、個人的に取り組んでいるものとイベントがかぶってしまったたり、LINE会議では市役所から参加することになってしまったり、時間に間に合わなかったりと、ご迷惑をおかけすることが多く、大変申し訳なかったです。次回、もし参加させていただける時には、もっとこの活動を盛り上げていけるようがんばりたいです。
- ・また地域の人のためになる活動をしてみたい。まだ将来の夢は決まっていないが、人のために、地域のためにがんばれる仕事がしたいので、これからも様々な人々とのつながりを大切にしてがんばりたいと思った。このような機会をいただき、ありがとうございました。

(2) 成果と課題・次年度へ向けて (成果/○ 課題/▲ 次年度へ向けて/◇)

- 地域づくりに熱心に取り組んでいる3名の方にファシリテーターを引き受けていただいた。高校生が地域づくりに楽しみながら取り組めるようファシリテートしていただいたことで、参画した高校生全員が今後も地域づくりに関わりたいという思いを持つことができた。
- 参画者2名とその友人が、12月に実施した「なかよしキッチン」のクリスマス会にボランティアとして参加するなど、本事業をきっかけに地域づくりにさらに関心を持ち、行動に移す姿が見られた。
- ▲参画者が5つの高校から集まったことや学年も違っていたことから、日程調整が非常に難しかった。
- ◇これまで本事業に携わった青年ファシリテーターの情報を山形県青年の家に提供する。

(3) ファシリテーターより

< 土屋 孝俊 (長井けん玉のふる里プロジェクト実行委員長) >

この度の事業はなかよしキッチン様の力もお借りして大変素晴らしい事業になったと思います。

参加した高校生達は最初の打ち合わせの時、なかなか考えが出てきませんでしたが、和むにつれてどうやら子ども達を楽しませられるか、どんどん面白いアイデアが出て自分達も含め、みんなで楽しもうという気持ちが出ているように見えました。みんなで準備もしっかりしたお陰で本番も大成功で、達成感と充実感でいっぱいだったと思います。

普段の学校生活で関わりのない地域の人達と今回のように関わるのは大事なことだと思います。今回の事業をきっかけに地域活動に積極的に参加してくれることを願っています。

この度は大変貴重な経験をありがとうございました。

< 佐藤 千恵美 (川西町子ども食堂「なかよしキッチン」代表) >

この事業は、高校生が主体となって地域活動を企画・運営することが特徴です。今回、当団体と一緒に活動を行うにあたり、通常のボランティアの受け入れとは違う形で高校生と関わることができて、改めて若い世代の活躍が地域づくりに繋がっていくのだと実感しました。指示を受けた通りに動くのではなく、自分達が企画して自分達でやるべきことを考えて自主的に動く。地域づくりに欠かせないことです。高校生の皆さんには今後も視野を広く様々なことに興味を持って地域づくりの担い手として頑張ってもらいたいです。地域活動に励む高校生の姿を見て、

子ども食堂に参加した保護者の方々が置賜の未来に光を感じ、子ども達にとって楽しい思い出づくりができたこと、心から嬉しく思います。参加させていただき有難うございました。

< 金 東玉 (一般財団法人 文教の杜ながい) >

学生が企画・設置・運営した「おきぼら地域クリエイターcrossover」は、置賜地域の情熱と地域愛が光り、特に川西町の「子ども食堂」でのイベントでは、お客様を楽しませるアイテムと空間作りのスキルが身につく貴重な経験でした。大学受験や就活に追われつつも参加した学生たちの情熱に感謝し、今後の活動に期待します。ありがとうございました。

○未来の参画者養成事業

1 開催要項とチラシ

置賜地区中高生ボランティアセミナー 開催要項

- 1 目的 ボランティア活動や地域活動に係る意義・基本的な技能・方法を学ぶ活動を通して青少年ボランティアリーダーを養成することで、将来地域の担い手となる人材を早期に育成する。
実際にボランティア活動に取り組むことを通して、自己有用感を得られるようにするとともに、自主性や社会性、協調性を育む。
- 2 主催 山形県教育委員会
- 3 主管 置賜教育事務所
- 4 対象 置賜在住の中学生 15名程度 置賜在住の高校生 10名程度
※申し込みが多数の場合は抽選となりますので、ご了承ください。
※7月25日(火)をめぐりに、決定のお知らせをいたします。
- 5 期日 令和5年8月2日(水)
- 6 場所 飯豊少年自然の家 〒999-0605
西置賜郡飯豊町大字添川3535-33
TEL (0238) 74-2331
白樺学童クラブ 〒999-1113
西置賜郡飯豊町大字小白川3360
〈連絡先〉TEL (0238) 74-2305
(こどもみらい館)
- 7 参加料 600円(食事代470円、保険代28円、材料代) 当日徴収します。

- 8 日程 集合・受付 自然の家 9:10~9:30

	9:30	10:00	10:30	12:10	13:10	14:50	15:20	15:40
8/2 (水)	集合・受付	であいのつどい 開講式	【講話】 「地域づくり」 について	【実技研修】 ・バルーンアート ・科学工作	昼食・休憩	【実地研修】 白樺学童クラブで の児童との交流	振り返り	閉講式 別のつどい

解散 自然の家 15:40

※各プログラムの時間および内容等については変更が生じる場合もあります。

- 9 内容 (1)「ボランティア」「地域づくり」に関する講話
(2) ボランティア実施の基礎となる実技研修
(3) 学んだことを活かせる実地研修(児童との交流)
- 10 持ち物 筆記用具、タオル、飲み物、参加料(600円)、内履き、健康保険証(写し)、常備薬(必要な場合)

- 11 服 装 学校指定のジャージ
- 12 申 込 別紙の「参加申込書」に必要事項を記入の上、7月12日(水)まで担任の先生に提出してください。
- 13 その他 7月28日(金)の正午以降のキャンセルについては、参加費(600円)を徴収させていただきますのでご了承ください。

令和5年度 未来の参画者養成事業

中高生 集え! 青少年!!

ボランティアセミナー

【日時】 8月2日(水) 9:30~15:40(受付9:10~)

【場所】 飯豊少年自然の家、白樺学童クラブ

【内容】

- 9:30~ 開講式・であいのつどい
自己紹介をしたり、「ボランティア」についてみんなで考えたりしよう!
- 10:00~ 講話「地域づくりについて」
地域づくり活動の魅力を教えていただきます!
- 10:30~ スキルアツ講座
ハイレアート、科学工作のスキルを身に付けよう!
- 13:20~ ボランティア体験
身に付けたスキルを使って、小学生と交流しよう!
- 15:00~ ふり返り・閉講式
仲間と共に、1日の学びをふり返ろう!

定員15名
※応募者多数の場合は抽選となります

申込締切
7月12日(水)

主催 山形県教育委員会 主管 置賜教育事務所
問い合わせ先/置賜教育事務所社会教育課(担当:秋山)
TEL:0238-88-8242 FAX:0238-84-5700

2 事業日程

時刻	主な活動	内容	場所
9:10	受付	○受付 ・参加費(600円)をおさめ、領収書を受け取りましょう。 ・しおりを受け取り、自分の活動班を確認しましょう。	いいでの広場
		○研修室待機 ・受付後、荷物を持ったまま研修室へ向かいましょう。 ・自分のネームのある席に座りましょう。荷物は自分の机のわきに置きましょう。 ・しおり・筆記用具を出して待ちましょう。	研修室
9:30	開講式	○開講式 1 開会 2 主催者あいさつ 3 事業および日程説明 4 自己紹介 ・しおり4ページの名簿順に自己紹介をします。内容は、学校、学年、名前とします。 5 閉会	研修室
9:40	オリエン	○オリエンテーション ボランティア活動について 班ごとの自己紹介	
10:00	【講話】	『地域づくりについて』 ※筆記用具を準備しましょう。 ★ 講師紹介 講話① 講話② 質疑応答 ※10時30分まで休憩をとり、同じ座席で待ちましょう。	
10:30	スキルアップ講座	○バルーンアート、科学工作のスキルアップ講座 ★ 講師紹介 <前半>10:35~11:10 ・1, 2班はバルーンアート、3, 4班は科学工作の研修を行います。 <休憩>11:10~11:20 ・しっかり水分をとりましょう。 <後半>11:20~11:55 ・1, 2班は科学工作、3, 4班はバルーンアートの研修を行います。 ※各講座終了後、最初の座席に移動します。 ※トイレ、手洗いを済ませて、貴重品を持って1階食堂に移動しましょう。	
12:10	昼食	○昼食 ・いただきます(全員で) ・ごちそうさまの前に片付けについて説明をします。 ・ごちそうさま(全員で) ・12:50まで休憩時間です。12:50に、研修室の自分の座席に座りましょう。	
12:50	交流会事前指導	○交流会事前指導 ・交流会の流れ、班長(各班の高校生1名)を確認します。 ・交流のポイント(小学生の思いを大事に、和やかに、安全に、楽しく)を確認します。 ・交流後、感想を発表してもらった代表者(各班の中学生1名)を決めましょう。	研修室
	荷物準備	○学童クラブ荷物準備 ・2つの作業に分かれて仕事をを行います。 学童クラブに持っていく物の準備(1班…バルーンアート、3班…科学工作) 研修室(友情)の掃除(2, 4班) ○移動準備 ・トイレ等を済ませ、全ての荷物を持って玄関前に移動しましょう。 ・飲み物が少なくなった時は、自然の家の水を水筒に入れてから移動しましょう。 ・1, 3班の人は交流で使う荷物を忘れずに持っていきましょう。 ※交流会で使う見本(実技研修で作ったもの)も忘れずに準備しましょう。	研修室

13:10	移動	○移動 ・1班からバスに乗車します。 ・後ろの座席からつめて座りましょう。	飯豊町スクールバス
13:20	到着・準備	○交流会準備 ・すべての荷物を持って体育館に入ります。 ・1, 3班の人は交流で使う荷物を忘れずに持っていきましょう。 ・体育館に入ったら、自分の荷物を南側(入って右手)の壁側にまとめて置きます。 ・ステージ側に科学工作のブース、入り口側にバルーンアートのブースを作ります。 ・1, 2班はバルーンアートのブース、3, 4班は科学工作のブースを準備します。 ・長机を12台科学工作のブースに準備します。手が空いている人で進めましょう。 ・準備が終わったら、班ごと1列で並びましょう。 (学童クラブの子どもたちも班ごとにとなりに並びます。)	白樫学童クラブ 体育館
13:30	【交流会】	『学童クラブの子どもたちと楽しく交流しよう』 ※参加児童35名 1 はじめの会 13:30~13:35 ・はじめの言葉 ・生徒代表のあいさつ(高校生1名) ・学童クラブのみなさんから ・注意事項説明	
13:35		2 交流<第1部> 13:35~14:00 (25分) ・1, 2班はバルーンアート、3, 4班は科学工作の活動を行います。 ・休憩時間は設定していないので、水分補給をしながら活動しましょう。 (小学生にも時々水分補給の声掛けをして、熱中症にならないようにしましょう。) ・小学生の思いを大事にしなが、和やかに、安全にそして楽しく活動しましょう。	
14:00		交流<第2部> 14:00~14:25 (25分) ・1, 2班は科学工作、3, 4班はバルーンアートの活動を行います。 ・場所を移動するタイミングでトイレ、水分補給の声掛けをしましょう。	
14:25		3 感想発表 14:25~14:30 ・児童より(2~3名) ・中学生より(各班1名) ※4班代表の感想発表後、4班代表者に続いて全員でお礼のあいさつをしましょう。 ・学童クラブのみなさんから ・閉会の言葉	
14:30	後片づけ	○後片付け 14:30~14:40 ・自然の家に持ち帰る荷物をかごに入れましょう。 (1班:バルーンアートの荷物、3班:科学工作の荷物)→1, 3班で長机の片付け ・2, 4班のみなさんは体育館をきれいにそうじしましょう。 ・高校生1名は消毒作業(霧吹きで吹きかける作業)をお願いします。 ・片付けが終わったら、自分の荷物を持ってバスに乗りましょう(行きと同じ場所に)。	
14:40	移動	○飯豊町スクールバスで移動(自然の家へ) ・所に着いたら、道具類をいいでの広場の端にまとめて置きましょう。 ・自分の荷物を持って研修室に移動し、休憩しましょう。	
15:00	振り返り	○アンケート記入 ・今朝、配付したアンケートを記入します。 ・特に、4の今日1日を振り返って感じたこと、成長したことはできるだけたくさん書きましょう。	研修室
15:10	共有	・班ごとに4に記入したことを共有しましょう。	
15:20	閉講式	○閉講式 1 開会 2 修了証授与(社会教育課長) 3 主催者あいさつ(社会教育課長) 4 講師から一言 5 諸連絡(アンケート・ネーム回収) 6 閉会	研修室
15:40	解散	○高校生打ち合わせ ・おきぼら地域クリエイターのグループLINEを作成します。 ○生徒・講師帰宅	

3 参加者の感想

自分から話を振ったり、話しかけてもらった時にすぐに話が終わってしまったりしないようにした。特に同じ班の人とのコミュニケーションを多く取った。準備の時はわからないところを聞いたり、積極的に手を挙げたりして参加できた。周りの人と協力して、工夫しながら準備することができた。交流の時は、「教えてあげる、遊んであげる」という考えで、一方的に楽しませるだけでなく、自分も対等な立場になって、一緒に盛り上がることで、小学生の子達ももっと盛り上がってくれた。自分が遊んでもらう立場だったら、どんな風に接してほしいかを考えて行動できた。小学生の子達の体調に気を配ったり、怪我をしないように常に周りに目を向けてたりすることができた。誰かに喜んでもらうために、「自分も楽しみながら」考え、実行し、「同じ時間を共有する」ことが大事だと学ぶことができた。次回からも、子どもだけではなく、対象の方の立場になって考えて、よりよい活動をしていきたい。

今日のセミナーを通して、私はやっぱり人と関わることがとても好きなんだなということに改めて感じました。まず、他校やあまり関わることの少ない、もしくは初めて出会う方々と接する中で、その人自身を知り、話題を広げていけたことが自分なりによかったのではないかと思います。また、活動をしていくうちにとても仲良くなれて、こういった機会がなければ互いに知ることもなかったかもしれないので、積極的に参加することの楽しさも知れました。小学生と遊ぶ際も、その子その子に合わせて言葉選びを行い、誠実に向き合っ楽しく触れ合うことができたので少し成長できたのかなと思います。ボランティアの定義はある程度決まっているのかもしれないですし、多くが他人のためとなっていますが、こういうセミナーを通して自分自身もすごく学ぶことが多くあったし、楽しかったので、ボランティアを通して自分も他人も心地よくなれるなら、参加することはとてもいいことなんだと思います。これからも自らが社会のためにできることを考え、実行し、よりよい社会をつくるため、貢献できるように頑張っていきたいと思いました。

今回のセミナーを通して、ボランティアは「相手の立場になって考えること」、「自分からチャレンジしてみること」の2つが特に大切だと感じました。

1つ目の「相手の立場になって考えること」では、小学生といっしょに活動する場面で、小学生がしてもらってうれしいことを考えながら行動したことで楽しんでもらうことができたし、自分もうれしい気持ちになりました。

そして、2つ目の「自分からチャレンジすること」は、午前中のボランティアについてのお話にもあった自主性と同じく、何でも最初は不安や迷いがあるかもしれないけど、今回のボランティアセミナーに参加したようにチャレンジして本気で取り組んでみるのが大事だと思いました。

今回のボランティアセミナーでの一番の学びは、ボランティアというものは大切だということが改めてわかったことです。実際に講話を聞き、交流をして、体験したからこそ大切さ、人と関わることの楽しさを感じることができました。セミナーに参加する前や開講式の前は、他校の中学生や年上の高校生がいるということに対し不安もありました。ですが、優しい人ばかりで楽しく学ぶことができました。私たちにできるボランティアとして、募金や災害時の復旧などたくさんありましたが、私が気軽にできることは、近所や地域の方々のお手伝いだと思います。今回のような開催されるボランティアだけではなく、身近なところから始めていくのが良いのかなと思いました。

今回のセミナーを通して、ボランティア活動の具体的な内容や心構えなど楽しく学ぶことができました。今回のセミナーが他のボランティア活動の参加のきっかけになればと思います。

私は以前からボランティアに参加したいと思っていましたが、仲の良い人がおらず、少しためらってしまい参加できないことが多々ありました。でも、今回は友達もいて、都合も合うということで参加しました。

最初は少し心配だったのですが、時間がたつにつれて、色々な人と仲を深められてよかったですと思いました。私はボランティアに参加したことが自分の成長したところだと思います。もう一つは人に話しかけるといって成長できました。私は小さい子どもが大好きで、小学生に会うのを楽しみにしていたのですが、自分が思っていた以上に自分も子ども達も楽しんでいてすごくうれしかったし、またボランティアに参加したいと思いました。

「課外活動をして様々な経験をしたい。」「地域のためにできることをしたい。」と思い申し込んだので、このような機会をいただけて良かった。初めは不安で緊張していたけれど、実際に科学工作やバルーンアートを試したらとても楽しくて、その後小学生とするのが楽しみになった。普段、小学生と遊ぶ機会はなかったし、小さい子と遊ぶのは苦手意識があったけれど、今日はとても楽しかった。小学生は好奇心旺盛でとても元気で、私たちが作ったものでたくさん遊んでくれた。楽しそうな表情を見るととても嬉しくなって、やってよかったという達成感を得ることができた。また、このような機会があれば参加したい。その時は今日学んだことを活かして活動したい。

ボランティアとは何か、ボランティアをする意味は何かということについて、深く考えることができた。

今回、私は学校で配られたチラシに興味を持ったから参加することにしました。今までの私だったら、「夏休み中にセミナー行くのだから」とか「別に強制ではないから参加しない」と思って行っていなかったと思います。でも、学校で国際協力や地域創生の学習をするうちにやってみたく思うようになりました。これは私の中で大きな成長だったと思います。また、今日の活動で新しく出会った人と、半日協力して過ごすということを通して、自分からいろんな人に関わりに行くという人間関係の構築の面でも成長することができたと思います。ボランティアを通して、人との関わりの温かさや自分から積極的に人のためになろうとする楽しさを感じました。次回もあれば参加したいと思ったし、運営するのも楽しそうだと思います。新たな自分の発見にもつながったと思うし、他の参加したメンバーたちもそう思っているのではないかと思います。学んだことを今後の学習に活かしたいです。中学生からもたくさんの刺激をもらいました。

今日、セミナーに参加させていただいて、私自身ボランティア自体を少し遠くに感じていた部分があったけれど、実際に体験してみて、小学生と触れ合ったあり、班のみんなと話をしたりするうちに、緊張もほぐれ、楽しんで行くことができました。ボランティアを慈善活動、社会貢献の一環としてだけではなく、一つの経験や思い出としての捉え方もすることができました。話すことが苦手だったり、不器用だったりしてつまづくことが少しあったけれど、みんなが初対面なこともあって、そこから関係性を築いていくことができて、そこもまたセミナーやボランティアならではのことで、新しい刺激や成長になったと思います。講話や小学生との触れ合いを通して、こういった経験を1回きりで終わらせるのではなく、将来につなげていきたいと思いました。

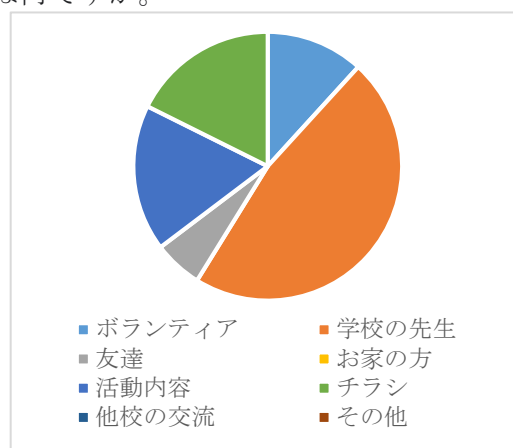
ボランティアにはどんな意義があり、何のためにやるのかを再確認することができた。また、それを頭に入れた上で、小学生達と交流できた。一番大変だと感じたのは、相手と同じ目線に立った時に自分の考えをうまく伝えることだ。今回の場合は、相手は小学生だったので、いつも自分が使っている言葉が相手にとっては意味のわからない言葉かもしれない。それを自分なりに工夫してわかりやすく相手に伝えることが今回はできたと思うので良かった。また、相手と話すために必要なコミュニケーション能力も、自分が初めて会った人達と協力してボランティア活動を行ったので、より深まったと思う。ボランティア活動は、自分が思っているよりも学ぶことが多いと身をもって感じたので、これからは機会があったら、自主的・積極的に参加をして、いろいろな知識を吸収していきたい。

先生から勧められて初めてボランティアに参加して、学童の小学生と交流できてとてもいい経験だったと思いました。私は学校の課題研究という授業でも地域活動をしてはいますが、内容が違うので楽しくできました。また、このようなボランティアで自分たちが楽しくするのではなくて、小学生たちが楽しむということを考えながらバルーンアートや科学工作の講座で学んだことを、午後、小学生に教えることができとてもよかったです。コミュニケーション能力が少しでもアップできたのではないかと思います。

4 参加者アンケート

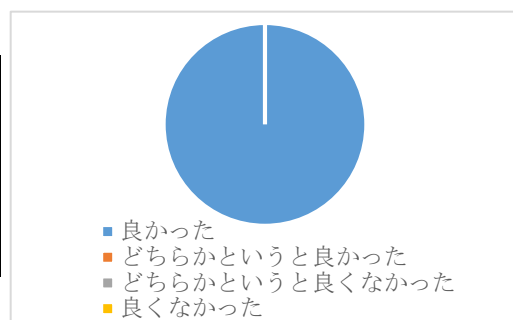
1 このセミナーに参加しようと思った1番の理由は何ですか。

ボランティアや地域活動に興味があったから	2	11.8%
学校の先生のすすめで	8	47.1%
友達にさそわれて	1	5.9%
お家の方のすすめで	0	
活動内容に興味をもったから	3	17.6%
チラシを見て興味を持ったから	3	17.6%
他校の生徒と交流したかったから	0	
その他	0	



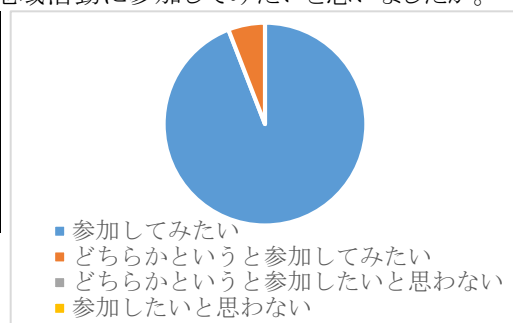
2 今日のセミナーに参加してよかったですか。

良かった	17	100%
どちらかという良かった	0	
どちらかという良くなかった	0	
良くなかった	0	



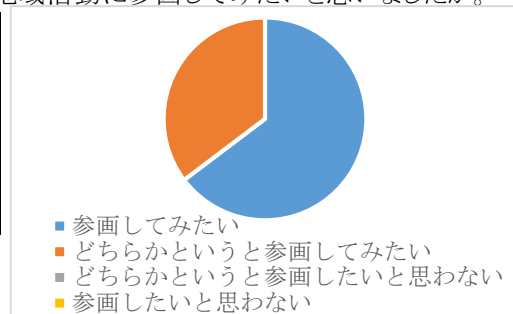
3 このセミナーに参加して、いずれはボランティア活動や地域活動に参加してみたいと思いましたか。

参加してみたい	16	94.1%
どちらかというと参加してみたい	1	5.9%
どちらかというと参加したいと思わない	0	
参加したいと思わない	0	



4 このセミナーに参加して、いずれはボランティア活動や地域活動に参画してみたいと思いましたか。

参画してみたい	11	64.7%
どちらかというと参画してみたい	6	35.3%
どちらかというと参画したいと思わない	0	
参画したいと思わない	0	



〔庄内地区実践記録〕



○次世代の地域づくり中核人材育成事業

1 事業計画

(1) 組織

＜青年ファシリテーター＞

○伊藤 大貴氏（合同会社 dano）

○難波 竜次氏（合同会社 dano）

○東北公益文科大学学生 2名

(2) 目的

三川町中高生ボランティアサークル来夢来人は59名という多くの会員が所属しており、毎年活発な活動が継続的に行われている。また参加している中高生たちの地域や自分たちの活動に対する意識もとても高い。しかし、活発な活動が行われている反面、自分たちでボランティア活動を企画、運営した経験はまだないという現状がある。そのため、今年度の次世代の地域づくり中核人材育成事業を通して中高生に「企画力」と「運営力」を身に付けていくことを目的とし事業を展開していく。

(3) 内容及び実施方法

	実施事業	期 日	内 容	備 考
第 一 弾	担当者との 打ち合わせ会①	4月12日(水)	○来夢来人の現状確認	テオトル
	担当者との 打ち合わせ会②	4月24日(月)	○第1回総会で話す次世 代事業内容確認	
	第1回来夢来人総会	4月29日(土)	○次世代事業の説明	
	ファシリテーター 実行委員会①	5月2日(火)	○次世代の進め方の確認	オンライン
	担当者との 打ち合わせ会③	5月8日(月)	○顔合わせ会に向けての 打ち合わせ	テオトル
	第1回企画会議	5月14日(日)	○企画検討 ・アイデア出し	
	担当者との 打ち合わせ会④	5月25日(木)	○顔合わせ会の内容 ○第2回企画会議に向け て	
	第2回企画会議	6月3日(土)	○企画検討 ・イベント開催日の決定	
	ファシリテーターとの 顔合わせ会と交流会	6月24日(土)	○顔合わせ会と交流 ・子育て支援センターで ボランティア活動	テオトル、 子育て支援 センター
	第3回企画会議	7月23日(日)	○企画準備 ・イベント内容の準備	テオトル
みかわ町納涼祭	8月26日(土)	○納涼祭でイベントの実 践	いろり火の 里	
第 二 弾	担当者との 打ち合わせ会⑤	8月28日(月)	○第2弾の進め方につい て	テオトル
	ファシリテーター 実行委員会②	9月17日(日)	○第2弾の方向性の検討	三川町公民 館
	担当者との 打ち合わせ会⑥	10月10日(火)	○第4回企画会議の日程 調整	テオトル
	担当者との 打ち合わせ会⑦	11月24日(金)	○第2弾の進め方の変更 について	庄内教育事 務所執務室
	担当者との 打ち合わせ会⑧	12月6日(木)	○紹介冊子の内容につい て	庄内教育事 務所執務室
	第4回企画会議	12月11日(月)	○第2弾の進め方の提 案・検討	テオトル
	担当者との 打ち合わせ会⑨	1月11日(木)	○三川町の補助金申請に 向けて	テオトル
	第5回企画会議	1月15日(月)	○紹介冊子のページ作成	テオトル

2 各種会議

	会議名	日時	内容
第一弾	ファシリテーター 実行委員会①	5月2日(火) 19:00～ 20:30	○事業説明 ・来夢来人の現状 ・今年度の進め方
	第1回企画会議	5月14日(日) 9:00～ 12:00	○企画検討 ・アイデア出し
	第2回企画会議	6月3日(土) 9:00～ 12:00	○企画検討 ・活動実施日確定(みかわまち納涼祭) ・活動内容の検討
	ファシリテーターとの 顔合わせ会と交流会	6月24日(土) 9:00～ 12:00	○顔合わせ会 ・自己紹介 ・子育て支援センター訪問 ○交流会 ・レクリエーション
	第3回企画会議	7月23日(日) 9:00～ 12:00	○企画準備 ・役割分担 ・みかわまち納涼祭の準備
第二弾	ファシリテーター 実行委員会②	9月17日(日) 9:00～ 11:00	○第2弾の進め方の確認 ・みかわまち納涼祭の活動の振り返りに ついて
	第4回企画会議	12月11日(月) 18:30～ 20:00	○第2弾の方向性の検討 ・三川町で活躍する若者団体の活動紹介 冊子を作成し、小・中学校に配布する
	第5回企画会議	1月15日(月) 18:30～ 20:00	○紹介冊子作成作業 ・担当ページの作成

【ファシリテーター実行委員会①】

来夢来人のこれまでの活動状況や、今年の次世代の進め方の方向性を共有した。

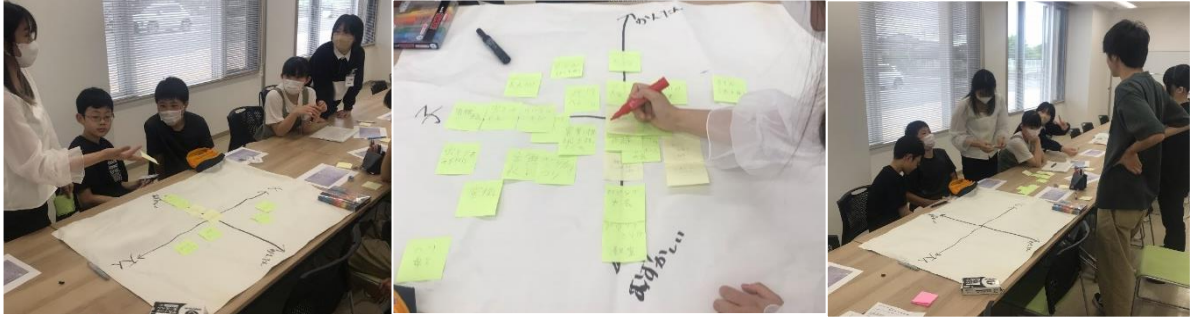
【第1回企画会議】

付箋を活用し、アイデア出しを行った。「自分たちが企画したイベントを実施する」という方向で決定した。



【第2回企画会議】

前回の企画会議を踏まえアイデア出し→意見の分類→自分の一番したいことを1つホワイトボードに貼る→その中から意見を絞り行う目的を書いていく→簡単な報告書の作成を行った。8月26日のみかわまち納涼祭でイベントを実施する方向で決まった。



【青年ファシリテーターとの顔合わせ会と交流会】

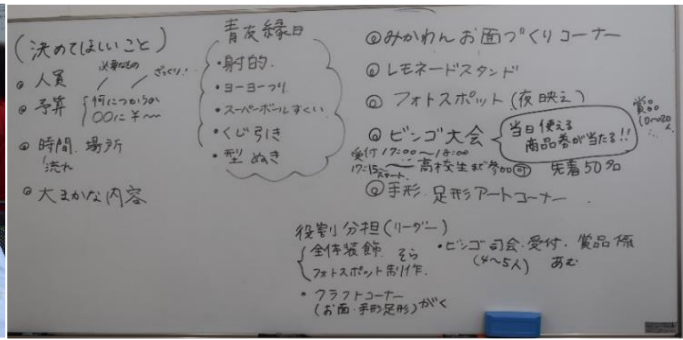
最初に自己紹介を行った。その後、子育て支援センターに移動し、ボランティア活動を実施した。内容は来館した幼児と一緒に遊ぶことで、工作やボール遊び、器具で遊ぶなどを行った。終了後会議室に移動し、交流会を実施した。ファシリテーターが考えてきたレクリエーションを行い、とても盛り上がる会となった。



【第3回企画会議】

みかわまち納涼祭で行われるキッズタイム（子供たちが参加するイベント）で①山形レモネードスタンド②フォトスポット作成③ビンゴ大会④クラフトコーナーの4つを行うことに決定した。その後、役割分担をし、人員、予算、時間・場所、大まかな内容について話し合いを行った。青年ファシリテーターが中高生にアドバイスをしながら、準備しなければいけないことを決めていき、最後に全体で話し合いの内容を共有した。





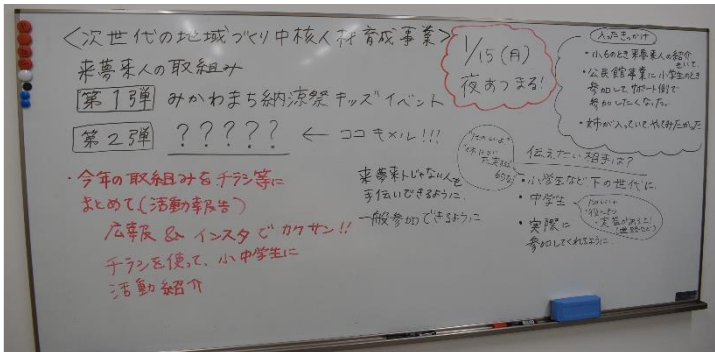
【ファシリテーター実行委員会②】



第2弾に向けて、どのような方向性で進めていくかを話し合った。また次の企画会議の内容や中高生への課題の提示の仕方や第2弾の地域活動プログラムはいつ頃実施するかなどのお話にもなった。

【第4回企画会議】

青年ファシリテーターから進行をしてもらい、第2弾の活動内容について話し合った。方向性として来夢来人の活動を中学生に伝えていきたいということになった。理由として積極的に活動に参加している人が固定しており、自分たちが高校を卒業した後の来夢来人が心配で、中学生に思いを引き継ぎたいという気持ちがあるようであった。そこで、来夢来人の活動を紹介する冊子を分担して作成することになり、次回の企画会議までにそれぞれでページを作成してくることとなった。



【第5回企画会議】

紹介冊子のページ作成作業を行った。話し合いの中で、来夢来人の紹介だけでなく、三川町で活躍している若者団体を紹介するページも入れることになった。また、紹介冊子のタイトルは「VOLO! (ウォロ)」に決定した。



3 地域活動プログラム

(1) 第1弾「みかわまち納涼祭でイベントを企画・運営しよう！」

～子どもたちの思い出に残る納涼祭を目指して～

①開催日時：令和5年8月26日（水） 16：00 ～ 19：00

②参加者：来夢来人の中高生（12名） 青年ファシリテーター（3名）

③活動内容

4年ぶり開催された、みかわ町納涼祭で、中高生が企画したプログラムを実施した。

「ビンゴ大会」では、司会者と高校生2名が中心となって進めた。先着50名のイベントであったが、すぐ定員を超える参加者が集まり、とても盛り上がった。「クラフト体験コーナー」では、手形・足形アートを行い、うちわに自分の手足を使って絵を描いていくことを行った。小さい子供たちが多く参加し、中高生が作り方を優しく教えている場面が見られた。「フォトスポット製作」では、材料を購入し木材や段ボールを組み立てて作成した。多くの参加者がその前で写真を撮っていた。「山形レモネードスタンドプロジェクト レモネード販売」は小児がん支援を目的としており、売上金の一部を支援団体に寄付するという活動で、その目的を理解し多くの参加者が購入していて、完売することができた。

イベント終了後、短い時間で反省会を行ったが、来夢来人の中高生たちから、自分たちで企画・運営し納涼祭を盛り上げたことへの達成感と充実感が感じられた。

【準備の様子】



【本番の様子（活動の周知を目的として作成したお便りより）】

令和5年度 次世代の地域づくり中核人材育成事業 通信
来夢来人 令和5年度 9月 発行No. 1
 【問合せ】 庄内教育事務所 社会教育課 TEL:0235-68-1983(櫻井)
NEXT STAGE ^

第1弾～納涼祭に向けてイベントを企画・運営しよう～

今年度の同事業は、三川町の中高校生ボランティアサークル「来夢来人」と一緒に活動しています。活動は第1弾と第2弾に分けて進めていきます。第1弾として8月26日(土)に三川町の「いろり火の里」で行われる納涼祭でのイベントの企画・運営を行いました。

次世代の地域づくり中核人材育成事業って何？
 中高生が青年ファシリテーターとアイデアを出し合い、企画・運営をする活動を通して、地域活動への理解を深め、地域づくりの次世代のリーダーとしての資質を高めていくことを目的とした事業です。



第1回企画会議の様子です。付箋を使ってやってみたいこのアイデアを出し合い、出された意見のグループ分けを行いました。今後の方向性として「三川町のイベントで自分たちが考えた企画を行う」ということが決まりました。

第2回企画会議の様子です。今回は青年ファシリテーターの2名が中高生を導き、話し合いが進みました。今回の企画会議では、三川町で行われる「みかわまちな納涼祭」というお祭りで、来夢来人が企画したイベントを行うということが決まりました。



ファシリテーターとの顔合わせ会＆交流会の様子です。テオトルの中にある子育て支援センターに来館した子供たちと交流するボランティア活動を行った後に、ファシリテーターが考えてきたゲームを行いました。とても盛り上がり、親睦が深まりました。

第3回企画会議の様子です。納涼祭で行うキッズイベントを運営することになり、「ビンゴ大会」「フォトスポット」「クラフト体験」「レモネード販売」の4つを行うことが決定！担当を決め、分担して準備を進めました。夏休み期間中に、7回準備会を行いました。

令和5年度 次世代の地域づくり中核人材育成事業 通信
来夢来人 令和5年度 9月 発行No. 2
 【問合せ】 庄内教育事務所 社会教育課 TEL:0235-68-1983(櫻井)
NEXT STAGE ^

第1弾～地域活動プログラム「納涼祭」大成功！～

フォトスポット製作

フォトスポットを制作しました。すべてから手作りです。多くの参加者が、写真を撮っていました。



ビンゴ大会運営

ビンゴ大会を企画・運営しました。先着50名のイベントでしたが、多数の参加希望があり、納涼祭を盛り上げるイベントの1つとなりました。



クラフトコーナー

クラフトコーナーとして、手形・足形アートを行いました。子どもたちが多く参加し、オリジナルのうねを楽しく作成していました。



レモネードスタンド活動

小児がん支援として、売上金の一部を支援団体に寄付するという活動で販売しました。多くの方が活動に賛同し、購入してくれました。



次の活動は第2弾として何を考えるかを考えていきます。中高生からどんなアイデアが生まれてくるかとても楽しみです！

(2) 第2弾「三川町で活躍する若者団体の活動を小中学生に伝えよう！」

①開催日時：12月11日(月)～3月中

②参加者：来夢来人希望者 7名

③活動内容：

地元定着者を増やすために、三川町で活躍する若年団体の具体的な取り組みや活動の様子を、周知していきたいと考え、紹介冊子を作成することとなった。そして作成した冊子を三川町の小・中学校へ配布していく。

紹介冊子を通して若者の活動を発信することで、その活動に興味を持ち、参加してみたいという小・中学生を増やすことを目的とした。その結果、地域活動への理解と興味・関心が高まり、将来的に地元定着者の増加や、次世代の地域リーダーの育成に繋がるのではと考え、実施した。

＜山形県主催・次世代の中核人材育成事業＞

**来夢来人の活動を
小中学生に広めよう！
参加者募集のお知らせ！**

日時：12月11日(月) 18:30～20:00

※保護者の許可をもらってください！

場所：テオトル 会議室1・2

内容：納涼祭に続く、自主事業の打合せ

持ち物：筆記用具、その他各自必要なもの

参加する人は12月5日(火)まで、LINE公式アカウントにご連絡ください。当日の飛び込み参加もOKです！

来夢来人 LINE 公式アカウント→友だち登録してね！



来夢来人事務局◆64-8310 (テオトル内)

4 事業振り返りとまとめ

(1) 事業の成果

①今後の地域活動への参画/参加に対する意識

問1 これからも地域活動で企画したり、運営したりすることに関わってみたいと思いましたが。(回答6名)

項目	人数(名)
とてもそう思う	5
そう思う	1
あまり思わない	0
思わない	0

問2 問1の理由は何ですか。

- ・参加する側も楽しいけど、企画して喜んでもらえるのはもっと楽しいと感じたから。
- ・私たちの次の世代にもこのような活動を知ってもらい、繋げて欲しいと思うから。
- ・自分の地域が盛り上がることで発展と共に元からあったが知らなかったことなどより自分の住む場所を知ることができるから。
- ・私は高校生になって、来夢来人だけでなく、たくさんの地域活動に参加してきた。それぞれその活動内容が違っても、ゴールは全て地域をより良くしたいというものだった。すべての活動がとても楽しく、人生経験になった。最後の活動として、中学生に来夢来人や地域活動の良さをより多く伝えられるように頑張りたいから。
- ・自分たちで企画する活動がとても楽しかったから。
- ・自分はこれから福祉関係の仕事に就くための勉強をするために進学をするので、地域づくりなどにもっと関わって行きたいと考えている。大学のある地域に住むので地元のための活動に参加できなくなるかもしれないが、先輩たちを見習って積極的に参加したいと思ったから。

②今年度の活動での気づき・今後の思い

【中高生より】

○活動に取り組んでみて、気づいたこと・感じたことについて教えてください。

- ・自分たちで企画して一から準備するのが楽しかった。みんなの個性を生かすことができたと感じている。
- ・私たち若い世代の意見もどんどん取り入れてくれる環境だったので発言しやすかった。
- ・今回の活動を通じて、これから取り組みにはチームワーク、地域との結びつき、などが必要であることを実感した。これらの要素を組み合わせることで、より良い未来を築くことができると思った。
- ・年代関係なく、地域のつながりは大切だと感じる。今年度、納涼祭が復活し来夢来人も大きく貢献してイベントを盛り上げることができた。たくさんの方が来てくれて、みんなで楽しむことができた。町おこしという、貴重な経験が出来てとても楽しかった。また、企画から実行まで全てに関わることで、イベントを行うための準備や工程を知ることができ、視野を広く持てるようになった。

- ・年齢が離れている人と沢山関わるのは大切だと感じた。
 - ・企画会議では、普段の活動とは違って中高生だけでなく、大人の方やファシリテーターの方と顔を合わせて意見を出し合う事で、自分たちが活動に興味を持った理由やなぜ活動を続けているかを振り返ることが出来た。
- 納涼祭の準備・運営では、今まで納涼祭の時とは少し違った活動内容になったが、これまでの活動の経験をいかし、新しい活動にも積極的に取り組むことで良い思い出を作れたし、素晴らしい経験を積むことが出来た。
- 紹介冊子作りでは、小学生や中学生にどのようにして魅力を伝えるかを考える上で、これまでの活動を振り返る良い機会になった。自分が来夢来人のどのようなところを大事にしてきたのかをまとめることで魅力の再認識をすることが出来た。

○これまでの活動を振り返り自分がこれから地域づくりのためにできそうなこと・やってみたいことは何ですか

- ・地域のお祭りでのイベントの企画・運営。
- ・ボランティアに参加するだけでなく地域の歴史などを知る活動。
- ・山形県内にたくさんのボランティア団体があるので、団体同士の交流、企画、活動をしてみたい。
- ・来夢来人の活動に積極的に取り組むこと。
- ・来夢来人としての活動は終わりになるのでこれからはファシリテーターとして、活動の手伝いをしたい。今までとは違った視点から助言や手伝いを出来たらと思っている。やってみたい活動としては季節ごとの祭りの規模を大きくしたり、地域住民同士が関われるイベントを増やしたりすることをしてみたい。

【青年ファシリテーターより】

○今年度来夢来人と活動を進める中で、ご自身が評価できること

- ・次世代事業の活動価値の言語化や生徒のやりたいことの方向性を整理したこと。
- ・子どもたちの考えややりたいと思ったことの整理を手伝えた。みかわまち納涼祭での出し物や企画と一緒に運営できた。参加していた生徒たちと一緒に作業を進めることができた。
- ・今年からの参加だったが、楽しく有意義に過ごせた。成果としては、自分自身の会話力などの成長が見られた。課題としては、ファシリテーターとしての周りを見る力を伸ばしたい。

(2) 今年度の活動を振り返って (成果○ 課題▲)

- 青年ファシリテーターが、中高生の「やりたい」という思いを上手に引き出し、ファシリテートしてくれた。イベントにも積極的に関わってくれた。またサークル担当者の思いも尊重しながら進めてくれたことがありがたかった。
- 中高生たちは、初めて自分たちでイベントを企画・運営していくことを経験できた。準備や当日の運営をととても楽しんで行っている様子が見られた。地域のため自分たちができることを実施していくことの大切さを理解していた。
- 中高生の思いをくみ取り、活動紹介冊子という形で残すことができてよかった。
- ▲来夢来人は活発な定期活動を多く行っているため、次世代企画会議の日程を調整していくことが難しかった。

○未来の参画者養成事業

1. 開催要項とチラシ

令和5年度 次世代の地域づくり中核人材育成事業・未来の参画者養成事業

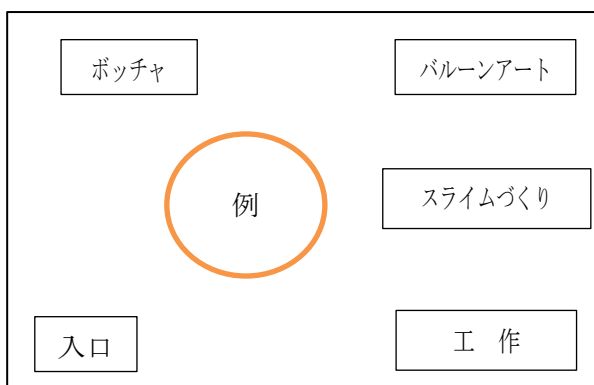
Yボラ サマーチャレンジ in 庄内 開催要項

- ねらい 中学生に対してスキルアップ講座を行い、その学んだ内容をもとに小学生と交流することを通してボランティア活動の楽しさを実感し、周囲の仲間へ活動への参加を呼びかけるボランティアリーダーを育成する。そして青少年のボランティア活動の拡大を図る。
- 主催 山形県教育委員会
- 共催 遊佐町教育委員会
- 主管 庄内教育事務所
- 日時 令和5年8月2日(水) 9時00分～15時30分
令和5年8月4日(金) 9時00分～15時30分
- 会場 令和5年8月2日(水)：鶴岡市朝暘武道館「大武道場」
令和5年8月4日(金)：遊佐町生涯学習センター「大会議室」
- 対象 ○青少年ボランティアサークル会員
○ボランティア活動や地域貢献活動に関心のある中学生
- 参加費用 保険料24円

9 日程

9:00	9:10	9:15	9:30	12:00	13:00	15:00	15:20	15:30
受付	開会	ボランティアサークル紹介	スキルアップ講座 (中学生対象)	昼休憩	YYフェスティバル (小学生との交流)	振り返り	閉会	

10 イメージ図



<講座内容>

- | | | |
|----------|----|--------------|
| ①バルーンアート | 講師 | 庄内教育事務所社会教育課 |
| ②ポッチャ | 講師 | スポーツ推進員 |
| ③スライム作り | 講師 | 庄内教育事務所社会教育課 |
| ④工作 | 講師 | 日本国末端技術研究所 |

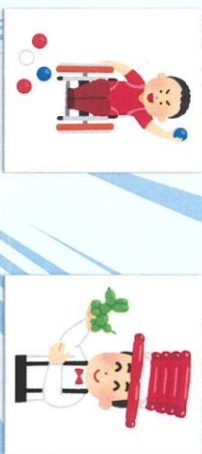
※事前に希望調査をとり、参加するスキルアップ講座を決定します。

- 11 その他 ○午前中に中学生のスキルアップ講座、午後に小学生とYYフェスティバルを行います。
○中学生が、午前中に習った講座の内容をもとに小学生と活動します。
○申込み方法は、FaxとQRコードでの申込みとし、締切は7月25日です。
○小学生の参加については、遊佐町の小学校、鶴岡市の小学校を中心にチラシを配布します。
○庄内全域の中学校へ参加を呼びかけます。

“Yボラ”サマーチャレンジin庄内

申込締切
7/25
(水)

- ボランティア活動で役立つスキルを一緒に身に付けよう！
- 身に付けたスキルを生かして小学生と交流しよう！
- 興味のある方はぜひ参加してみてください！



鶴岡市朝暘武道館「大武道場」、遊佐町生涯学習センター「大会議室」を会場に、バレーンアート、スライム作り、ポッチャ、工作のワークを作り、子どもたちと交流をします。

ボランティアに生かせるスキルを身に付けませんか？

- <内 容> スキルアップ講座&小学生との交流 (YY フェスティバル)
- <対 象> ボランティアに興味のある中学生
- <参加費用> 保険料24円
- <申し込み方法> 7月25日までに①②のいずれかの方法で申し込んでください

- ①裏面の参加申込書に必要事項を記入し、Faxでお申し込みください。
- ②QRコードよりお申し込みください。



日時 8月2日(水)、4日(金) 9:00~15:30
場所 2日：鶴岡市朝暘武道館「大武道場」
4日：遊佐町生涯学習センター「大会議室」



お問い合わせ 庄内教育事務所社会教育課 担当：櫻井 孝輔
Tel：0235-68-1983 Fax：0235-66-3015 E-mail：sakurakosue@pref.yamagata.jp

主催：山形県教育委員会 共催：遊佐町教育委員会 主管：庄内教育事務所

Yボラサマーチャレンジin庄内

YYフェスティバル

バレーンアート、スライム作り、ポッチャ、工作をやってみませんか？先生は中学生のお兄さんとお姉さんです！



・ 8月2日(水)、4日(金) 13:00~15:30
2日：鶴岡市朝暘武道館「大武道場」
4日：遊佐町生涯学習センター「大会議室」

・ 参加費用 保険料24円

- <内 容> バレーンアート、スライム作り、ポッチャ、工作
- <対 象> 庄内地区の小学生
- <申し込み方法> 7月25日までに①②のいずれかの方法で申し込んでください

- ①裏面の参加申込書に必要事項を記入し、Faxでお申し込みください。
- ②QRコードよりお申し込みください。



お問い合わせ 庄内教育事務所社会教育課 担当：櫻井 孝輔
Tel：0235-68-1983 Fax：0235-66-3015 E-mail：sakurakosue@pref.yamagata.jp

主催：山形県教育委員会 共催：遊佐町教育委員会 主管：庄内教育事務所

2. 事業日程

※鶴岡会場 熱中症対策のため

午前 : 小真木原総合体育館「大会議室」「第一多目的ホール」

午後 : 朝暘武道館「剣道場」に場所を変更

時刻	内 容	備 考
9:00	○受付開始	
9:10	1 開 会 【 5 分 】	 (バルーン) <input type="checkbox"/> バルーン <input type="checkbox"/> ポンプ (スライム) <input type="checkbox"/> プラスチックコップ <input type="checkbox"/> せんたくのり <input type="checkbox"/> 割りばし <input type="checkbox"/> ホウ砂 <input type="checkbox"/> 水、お湯 (ボッチャ) <input type="checkbox"/> ボッチャ <input type="checkbox"/> ラインテープ (工作) <input type="checkbox"/> 両面テープ
9:15	2 ボランティアについてお知らせ 【 5 分 】	
9:20	3 スキルアップ講座 前半 【 60 分 】 ①バルーンアート ②スライムづくり ③ボッチャ ④工作	
10:20	4 休憩 【 10 分 】	
10:30	5 スキルアップ講座 後半 【 60 分 】	
11:30	6 YYフェスティバルについて 【 20 分 】	
11:50	7 昼休憩 【 60 分 】	
11:40	8 (鶴岡会場) 中学生 剣道場に集合完了	
12:50	○受付開始 (小学生)	
13:00	9 開 会 【 10 分 】	
13:10	10 YYフェスティバル 前半 【 50 分 】 ①バルーンアート ②スライムづくり ③ボッチャ ④工作	
14:00	11 休憩 【 15 分 】	
14:15	12 YYフェスティバル 後半 【 50 分 】	
15:05	13 振り返り (中学生のみ) 【 20 分 】 ※小学生は解散	
15:25	閉 会 【 10 分 】 ・連絡 ・アンケート記入	
15:35	解 散	

3. 参加者の感想

<鶴岡会場>

- ・子どもたちと交流するのは少ないわけではないので、「私たちだったらみんなと上手くできる」と思っていたのですが、実際にしてみると緊張して上手く説明できなかったのが次もする機会があったら気を引き締めていきたい。
- ・小学生たちと関わることができて良かったし、小学生たちに上手く伝えることができるか不安だったけどみんなと協力することができて良かった。小学生も楽しそうで良かった。
- ・あまり自分より小さい子供たちと交流する機会がなく不安だったけど子供たちにどう伝えたら上手く伝わるか、楽しませられるかを考えて行動することができたので良かったです。良かったです。
- ・初めて挑戦することもあり大変だったけど結果として楽しめたので良かった。年下の子たちと関わるのは苦手意識があったけれど苦手じゃなくなった気がする。ボランティアをしてみるのも良いと感じた。楽しめた。
- ・今回のボランティアは一中の知り合いばかりだったので緊張せずに楽しく活動することができた。ただ小学生に教えるとなると言葉で説明することが難しかった。新しくできることが増えたので良かったです。
- ・最初は自分もできないことがたくさんあって、小さい子に教えられるか不安だったけど自分なりに楽しませてあげることができたと思うし、自分も一緒になって小さい子たちと成長できて良かったと思いました。自分自身も楽しむことができて良かったです。これからも機会があれば参加していきたいです。
- ・ボランティアに参加するのは初めてで小学生と関わる上でどのように接すれば良いかわからなくて不安だったけど自分なりの伝え方でみんなが楽しめるようにお話ししたりすることができた。更に自分も楽しみながらボランティアをすることができて良かったです。またこのような機会があったときに、自分から参加するようになりたいと思いました。
- ・初めてボランティア活動をしてみて小学生に教えるのは難しかったけど、自分なりに考えてすることができたし、小学生に楽しんでもらえたので良かった。とても良かったです。
- ・自分で実際に行うのは簡単だけれど、人に教えるということが難しいのを改めて知ることができました。また自分では教えているつもりでも小学生には伝わりきっていなかったりすることも難しかったです。でもしっかり教えられて小学生が楽しそうに遊んでくれていたのでとても嬉しかったです。今回はこのような機会をいただきありがとうございました。
- ・小学生のみんなにどうやったら楽しんでもらえるだろうかと考えながら活動していました。あまり話さない子も楽しんでくれているかな？と不安だったのですがみんな楽しかった！と言ってくれたので頑張って良かったと思いました。一人で大人数に説明するのは大変だったけど1年生や2年生でもできることが多くて驚きました。こうしたボランティア活動に参加するのは初めてだったのですが、学んだことも多く有意義な時間を過ごすことができました。
- ・久しぶりに小さい子たちと関わったので緊張したし不安でしたが、みんなとどうすれば楽しんでもらえるか考えてたくさん工夫できた。また、小さい子と遊んでいるとき、自分たちも楽しめたしボランティア活動の良さが自分なりに分かった気がした。これからもこのような機会があれば自分から積極的に参加したいと思いました。

- ・ボランティア活動に興味を持っていたけれど恥ずかしさ等もあってなかなか自分から参加することができませんでした。でも、このYボラサマーチャレンジは内容も雰囲気も気軽に参加できるような内容だったのが良かったです。初めてのボランティアでしたが、小さい子たちに教え、一緒にコミュニケーションをとることの大切さを学ぶことができました。また一緒に活動する人たちと協力して、互いに楽しみ、学ぶこともできて良い経験になった。これからも興味のあることに向かったり、ボランティアをして社会貢献ができたりできたら良いなと思いました。
- ・友達と来たわけでもなく、工作も教えるのが一人だしで最初は不安が大きかったけど小学生のみんながしっかり話を聞いてくれたおかげで私も小学生のみんなも笑顔になれました。小学生や幼稚園児の兄弟がいることもあり、関わり方が簡単でした。まだまだ夏休みはあるので他のボランティア活動にも参加してみたいと思います。楽しかったです。今日はありがとうございました。

<遊佐会場>

- ・小さい子や高校生、他校の中学生との交流ができてとても楽しかったです。この経験を今後に生かしていきたいと思いました。
- ・小学生に教えたりするのが楽しかった。あまり人に教えたりすることはしないので良い機会になった。仲良くなったりできた。小学生も楽しそうで嬉しかったです。
- ・他校の生徒や小学生の子たちと楽しく交流することができました。小学生の目線に合わせて会話をしたり、伝えたりすることで、話しやすい環境をつくることができました。今日の活動を今後生かしていきたいです。
- ・小学生の子供たちに教わったことを教えるのは難しかったけど同じチームの人と工夫しながら教えることができて良かったです。
- ・地域の人や子供たちと関わるのができて楽しかった。小さい子と目を合わせて一緒に遊んで楽しむことができて良かった。機会があったらまた参加したいです。
- ・元気でたくさん話してくれる小学生には「すごい！」とか相槌をうち、緊張している子には「好きな動物は？」など質問をすることで、たくさん話してくれた。みんな楽しそうで、自分も楽しくなった。
- ・他校の中学生との関りもできた。小学生と楽しく一緒に遊んだり、話したりできた。伝えるのが難しかったけど、今後生かして頑張ろうと思った。次の活動も積極的に参加しようと思った。
- ・小学生のみんなが楽しめるように考えて行動できたので良かった。自分も楽しめたし、他校の生徒とも仲を深められて良かった。
- ・今回ボランティア活動に参加してみて、自分自身が今までしたことのない活動を体験することができた。また他の中学校、高校の人との交流や小学生との交流を深めて楽しく参加することができて良かったです。
- ・小学生との交流の他にも違う学校の中学生や高校生の方とも交流できて凄く楽しかった。小学生に教えるときに悩んでいたら他の子が助けてくれてありがたかった。またこのような自分の興味のあるボランティアだったら参加しようと思えた。
- ・自分自身ボランティア活動にとっても興味があったのですが、する機会がなく中学校内でしかすることができませんでした。今回、Yボラサマーチャレンジがあるということで参加してみようと思いました。その中で他校の人とも関わり、仲を深めることができたので良かったです。またこのような機会があれば参加したいです。

- ・初めてボランティア活動に参加してみて、ボランティア活動は、とにかく周りの人を巻き込んで楽しんで活動することが大切だと感じた。これから、この経験を生かしていきたい。
- ・バルーンアートは最初からできていたので、教えることが難しいと感じました。子供たちは手が小さいから思うように押さえることができなかったです。工作は両面テープを貼る場所指示するのが難しかったです。ボランティアは好きでこれからも参加していきたいと思います。
- ・初対面の人がほとんどで最初は緊張したけど、たくさんコミュニケーションをとって楽しく活動できて本当に良かったです。午後からの子供たちとの交流も伝わるように説明するのは難しかったけどみんなが楽しんでくれて良かったです。今日はとても貴重な体験ができました。ありがとうございました。

【庄内教育事務所社会教育課 公式 Instagram より】



4. 参加者アンケート

開催日 8月2日(鶴岡会場) 4日(遊佐町会場) 中学生 26名 高校生1名 計27名 参加

① Y ボラサマーチャレンジに参加しようと思ったきっかけは何ですか。(複数回答可)

		回答数(人)	回答率
1	ボランティア活動に興味があったから	16	25%
2	学校や先生のすすめで	9	15%
3	友達に誘われて	14	23%
4	お家の方のすすめで	1	2%
5	活動内容に興味を持ったから	11	18%
6	チラシを見て興味を持ったから	7	11%
7	他校の生徒(児童)と交流したかったから	2	3%
8	その他	2	3%

計 62

8 その他(理由)

・かざみどり通信を見て ・中学校のアンケートに書けるため

② Y ボラサマーチャレンジの内容はいかがでしたか。

		回答数(人)	回答率
1	大変よい(大変満足)	27	100%
2	よい(満足)	0	0%
3	あまりよくない(あまり満足ではない)	0	0%
4	よくない(満足ではない)	0	0%

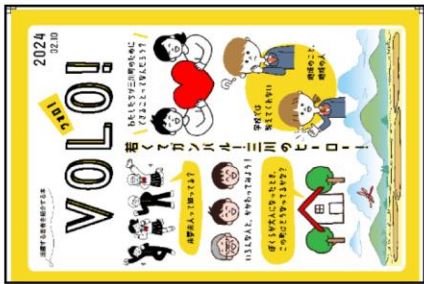
③ 今後もボランティア活動に参加してみたいと思いますか。

		回答数(人)	回答率
1	積極的に参加したい	10	37%
2	機会があれば参加したい	17	63%
3	あまり参加したくない	0	0%
4	参加したくない	0	0%

④ 今後、ボランティア活動を企画したり、運営したりすることに関わってみたいと思いますか。

		回答数(人)	回答率
1	とても思う	11	41%
2	思う	14	52%
3	あまり思わない	2	7%
4	思わない	0	0%

次世代の地域づくり中核人材育成事業 令和5年度実績について



ファシリテーター＝ 15名(村山4名, 最上4名, 置賜3名, 庄内4名)
 参加者 ＝ 29名(村山5名, 最上10名, 置賜7名, 庄内7名)

- ◇三川町中高生のサークルとの連携
- ◇地元納涼祭でのイベント企画と運営
- ◇地元で活躍する若者団体の活動を紹介する冊子作製

- ◇新庄・最上ジモト大学との連携
- ◇高校生が企画を実践
- ◇実践発表会の実施

庄内地区①
 「みかわまちな納涼祭でイベントを企画・運営しよう!!」
 みかわまちな納涼祭という地域のイベントで、自分たちが企画した「ビンゴ大会」「クラフト体験コーナー」「フォトスポット製作」「レモネードスタンドプロジェクトレモネード販売」を行った。

最上地区①「奥の細道 最上(てっぺん)ライン」
 陸羽東線の最上町の駅名が書かれたくじを引いて、新庄駅から引いた駅名の出かけ、その駅の周辺を散策し、これまで知らなかった新たな魅力を見出すという企画を実施した。

庄内地区②「三川町で活躍する若者団体の活動を
 小中学生に伝えよう」
 三川町で活躍する若者団体の活動を紹介する冊子を
 中高生で分担して作成し、その冊子を小・中学校に配
 布し、活動内容の紹介をした。

最上地区②「最上(てっぺん)ラーメン作り」
 旬の最上伝承野菜を使ってラーメンをつくり、その中から投票により最上(てっぺん)ラーメンを決め、決めた最上(てっぺん)ラーメンを最上総合支庁内食堂の「お食事処千起」に提案するという企画を実施し

最上地区③「最上地区ヤングボランティア交流会&フェスティバル」
 上記①、②の成果発表とカードゲームコーナーを実施し、参加者と交流した。

◇子ども食堂での企画実践

置賜地区
 「おきぼら地域クリエイティブ crossover」
 川西町こども食堂「なかよしキッチン」で、「SDGsババぬきカードゲーム」と「なぞとき迷路」を企画・実施し、参加した57名の親子に楽しんでもらった。



◇地元イベント「やままる祭」での企画立案

村山地区
 「いっしょにLinkる?」
 ～「やってみたい」をカタチに～
 「Link MURAYAMA」(村山市)で開催した“やままる祭”において、地域を元気にしたいというやままる祭実行委員会や地元企業の皆様と連携し、「キーワードラリー」を企画・運営し、各スポットで「ボウリング」や「まちがい探し」等を行った。当日のために、オリジナルキャラクターを用いて施設紹介を含んだパンフレットも作成した。



〔指標〕地域活動に取り組む青年グループ数〔KPI〕

R3 = [目標値] 全市町村 78 団体 R4 = [目標値] 全市町村 79 団体 R5 = [目標値] 全市町村 80 団体
 R3 = [現状値] 23 市町村 66 団体 R4 = [現状値] 24 市町村 79 団体 R5 = [現状値] 24 市町村 80 団体

未来の参画者養成事業 令和5年度実績について

参加中学生 = 115名(村山52名, 最上27名, 置賜10名, 庄内26名)

- ・満足度「大変満足」「満足」…99.1%
- ・次回もこの事業に参加したいか「ぜひ参加したい」「参加したい」…100%
- ・今後、参画者(自分たちで企画運営する)として参加したいか「とてもそう思う」「そう思う」…91.7%



◇庄内地区

事業名「Yボラサマチャレンジ in 庄内」
 期日 令和5年8月2日(水)
 場所 鶴岡市小真木原総合体育館
 参加者 管内中学生26名 管内高校生1名、
 遊佐町生涯学習センター
 スキルアップ講師4名 運営協力者1名
 内容 スキルアップ講座(バルーンアート、工作)
 午後 スキルアップ講座で学んだことの実践
 ① バルーンアート
 ② ボッチャ
 ③ スライム作り
 ④ 工作



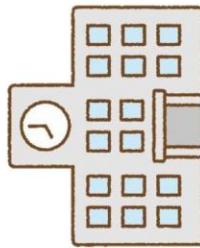
◇最上地区

事業名「最上地区中学生ボランティアセミナー」
 期日 令和5年8月2日(水)
 場所 最上広域交流センター ゆめりあ
 参加者 管内中学生27名 スキルアップ講座講師6名
 ボランティアサークル所属高校生3名 運営協力者10名
 内容 午前 講座「ボランティアについて」
 管内高校生ボランティアサークル所属高校生による活動事例紹介
 スキルアップ講座(モルック交流体験、図書館講座、工作・折り紙
 アイスブレイクゲーム)
 午後 スキルアップ講座で学んだことの実践
 訪問先(はぐみキッズ放課後倶楽部、明倫放課後児童クラブ、
 新庄放課後児童クラブ、新庄市立図書館、万馬町若連、
 コスモロードを創る会)



◇置賜地区

事業名「置賜地区中学生
 ボランティアセミナー」
 期日 令和5年8月2日(水)
 場所 飯豊少年自然の家
 参加者 管内中学生10名
 次世代事業参画高校生7名
 青年フアンタター1名
 スキルアップ講座講師2名
 内容 午前 青年フアンタターへの講話
 「地域づくりについて」
 実技研修①バルーンアート
 ②科学工作
 (ペットボトル空気砲)
 午後 白樫学童クラブにおいて、スキルア
 プ講座で学んだことの実践
 (児童との交流)



◇村山地区

事業名「MY ボランティアスキルアップセミナー」
 期日 令和5年8月1日(火)～8月2日(水)
 場所 山形県青年の家
 参加者 管内中学生52名 スキルアップ講座講師2名
 ボランティアサークル所属高校生11名
 運営協力者5名
 内容 1日目 講座「ボランティアとは？」
 グループワーク
 「班の活動テーマを決めよう」
 実技講座「読み聞かせのスキルアップ」
 「企画考案」
 2日目 スキルアップ講座で学んだことの実践
 訪問先(舞鶴保育園、天童幼稚園、
 たかだま幼稚園、小百合保育園、
 天童みくに幼稚園、永岡よつば児
 童クラブ、干布ひまわり児童クラブ
 天童中央児童館、天童南部第
 三・第四学童)



令和5年度
次世代の地域づくり中核人材育成事業
記録集

発行：令和6年3月

編集：山形県青年の家

〒994-0032 天童市小路1丁目7番8号

TEL 023-654-4547 / FAX 023-652-2007

協力：村山・最上・置賜・庄内各地区ワーキンググループ

（事務局：各教育事務所社会教育課）